

Performing Arts Meeting in Yokohama 2020

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020

開催報告書



Photo by Lee Ren Xin

名称	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020 Performing Arts Meeting in Yokohama 2020
通称	TPAM2020
会期	2020年2月8日（土）～16日（日）
主会場	KAAT神奈川芸術劇場、Kosha33（神奈川県住宅供給公社）、横浜市開港記念会館、横浜ポートシアター、クリフサイド、関内新井ホール、横浜赤レンガ倉庫1号館、Amazon Club
主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC – 国際舞台芸術交流センター）
助成	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）、アジア・カルチュラル・カウンスル
後援	外務省、文化庁、神奈川県、横浜市
提携事業	横浜ダンスコレクション2020、舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）、アートサイトラウンジ vol.25、劇場、音楽堂等連絡協議会（劇音協）シンポジウム、舞台芸術AiRミーティング、アジア・ネットワーク・フォー・ダンス（AND+）シンポジウム

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020（TPAM2020）は、「芸術見本市（TPAM／Tokyo Performing Arts Market）」としての東京での第1回開催（1995）から24回目、同時代的舞台芸術に取り組むプロフェッショナルを主対象と定義（2005）してから15回目、横浜に移り「見本市」から「ミーティング」へ改称（2011）してから10回目、アジア・フォーカスを開始（2015）してから6回目の開催となった。

プログラムは、TPAM2017で確立した形式を踏襲し、TPAMエクスチェンジ（プロフェッショナルの交流プログラム）、TPAMディレクション（主催公演プログラム）、TPAMフリンジ（公募公演プログラム）の3つのカテゴリーに分け、横浜の主会場（TPAMディレクション、TPAMエクスチェンジ）および横浜・東京の複数会場（TPAMフリンジ）にて、9日間に渡り展開。専門的な内容・機能に特化した一部の交流プログラムを除き、一般観客も参加可能とした。

アジア・フォーカスを開始した2015年から2017年までの2年間でアジア・オセアニアからの参加登録者数がほぼ倍増し、それ以降4年間概ね微増／安定している（3頁参照）。45ヵ国から962人という今回の参加登録者数はTPAM史上最大で、現行の催事構造と事務局体制で参加機会とサポートを十全に提供できる上限に達した感がある。国内参加登録者数については、アピチャップン・ウィーラセタクン『フィーバー・ルーム』のチケット獲得を目的に参加登録者が急増した2017年以外は、ほぼ同レベルで推移している。一般観客を含む延べ来場者数も増加傾向ではあるが、展示や野外会場での入退場自由の演目などがあると大きく変動する数字であり、演目数や公演数を参照する限りは、2017年以降はほぼ同規模で推移していると考えられる。

国際交流基金アジアセンターの設立とともに開始したTPAMのアジア・フォーカス・プログラムは、政府の掲げる「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」に伴う2020年という時限付きの予算拡大に負うところが大きいが、複数年にわたり一定以上の規模の予算獲得が想定できる環境が実現したことにより、アジアの国際的舞台芸術プラットフォームとしての形式、構造、信頼を確立することに

	プロフェッショナル参加方法	一般参加方法
参加登録	オンライン登録（登録料 5,000円）	対象外
TPAMディレクション	プロフェッショナルレートで各演目、あるいは定額 5,000円で全演目をオンライン予約	チケットかながわ（KAAT神奈川芸術劇場での上演作品のみ）、Peatixにてチケット購入
	一部のプログラムは無料／予約不要	
TPAMエクスチェンジ	無料（グループ・ミーティングにホスト登録する場合は別途オンライン登録料 5,000～24,000円）	無料～当日 500 円（一部のプログラムは入場不可）
TPAMフリンジ	割引などの特典つきでオンライン予約	各公演の取り扱い先にてチケット購入

もつながった。参加登録者数とその地理的分布が高い水準で安定したことはその証左の一つである。また、プログラム構造の確立に伴い、5 段階評価を含む参加者アンケートを3年続けて実施した。アジア・フォーカスの評価、TPAM全体の評価とも高く（4頁参照。5 段階評価の「3」の多くは全ての公式プログラムには参加していないなどの理由による判断保留で、「2」「1」は評価方式の誤解によるものを含むが、そのまま集計している）、プログラムの方向性について数々の貴重な示唆をいただき、TPAMへの参加から得た有形無形の成果について多くの生き生きとした報告が届いている。今後の展開に反映させていきたい。

前回から主会場の一つとなった横浜市開港記念会館に加え、今回はオープニング・レセプションを旧横浜市庁舎（その後馬車道に移転）に隣接する関内新井ホールで、クロージング・パーティーを1946年創業の元町のダンスホール「クリフサイド」で開催。パブリック・トークや参加者受付には、前回に引き続き、神奈川県住宅供給公社の協力を得て同公社ビル内の多目的スペース「Kosha33」を使用した。昨年開館したBankART Station、BankART SILKはTPAMフリンジ会場として活用された。

横浜ダンスコレクション、SIDance（ソウル）、City Contemporary Dance Festival（香港）が推薦するダンスアーティストを世界各地から招聘するダンスプレゼンターに紹介する「HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム」が、香港（2017年）、ソウル（2018年）での開催に続いて今年は横浜で開催された。TPAM は例年横浜ダンスコレクションと提携し、TPAMフリンジへのオーガナイザー登録誘致などを通して両催事への横断的参加を促しているが、今年は特に「HOTPOT」との提携を強め、TPAMディレクションをダンスと身体表現中心にプログラムし、スケジュールをできる限りHOTPOT参加と両立可能にした（横浜ダンスコレクション／HOTPOTには25ヵ国・地域から72名のプロフェッショナルが参加）。ダンス関係者の参加の充実に加え、近年ミクストメディア作品を多く紹介していたTPAMとしても、身体という舞台芸術の原点（の一つ）に立ち返る形でアジア・フォーカスを総括するプログラムとなった。

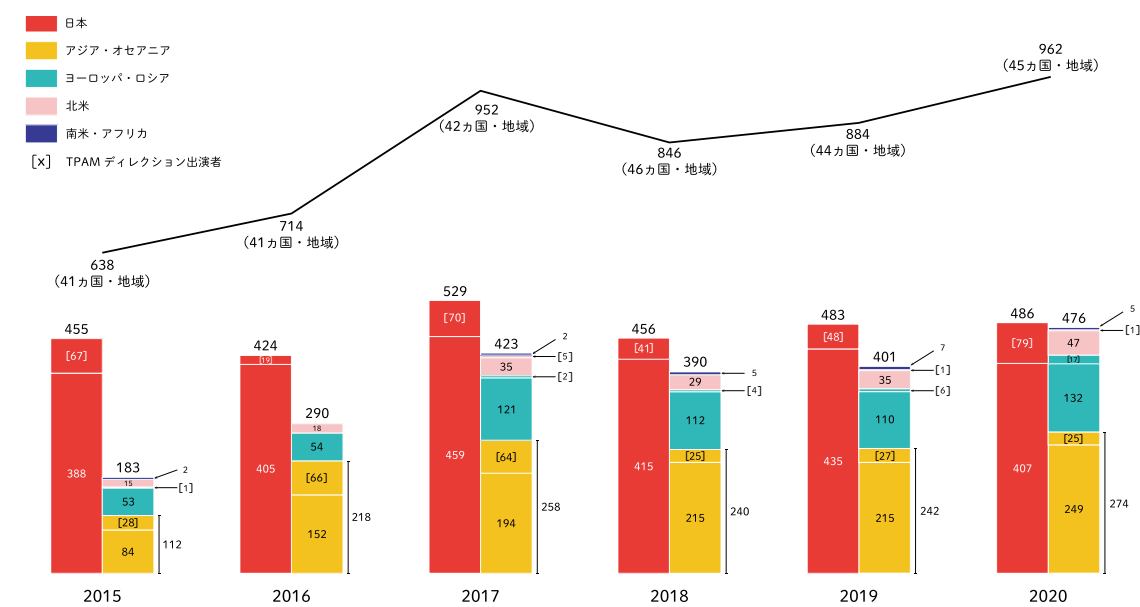
会期前日の2月7日時点で、2月3日から横浜港に停泊していた「ダイヤモンド・プリンセス」船上を除く国内の新型コロナウィルス感染症PCR検査陽性者は25人（うち21人に湖北省滞在歴あり、厚生労働省発表）。海外からの参加者には、国内の状況や緊急時対応に関する英語の情報源をまとめた資料を配布した。ヨーロッパや東アジアから数件のキャンセルがあったが、ほとんどの登録者は来日。公演はTPAMフリンジのうち中国と日本のコラボレーション作品1件、マカオの作品1件が中止になり、新型コロナウィルスと無関係の理由で日本の作品1件が中止になった他は全て実施された。参加者の感染は報告されていない。

各プログラムの詳細については7頁以降を、メディア掲載などの一覧は53頁以降を参照されたい。

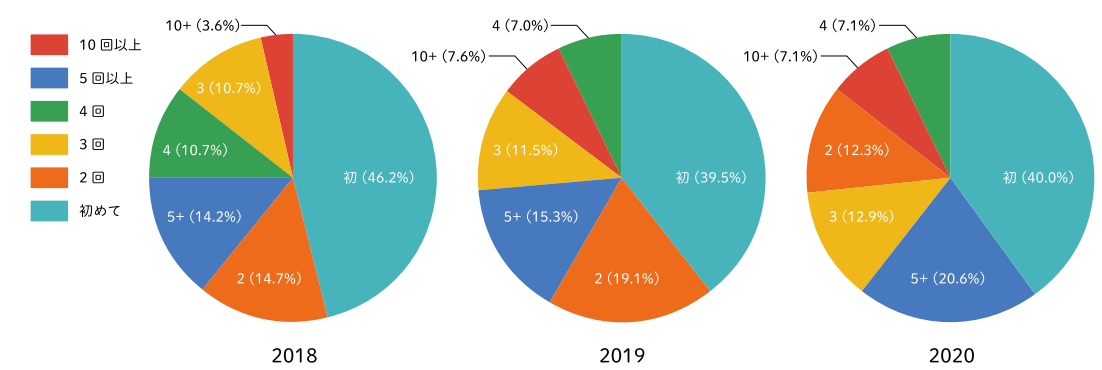


オープニング・レセプション（関内新井ホール）

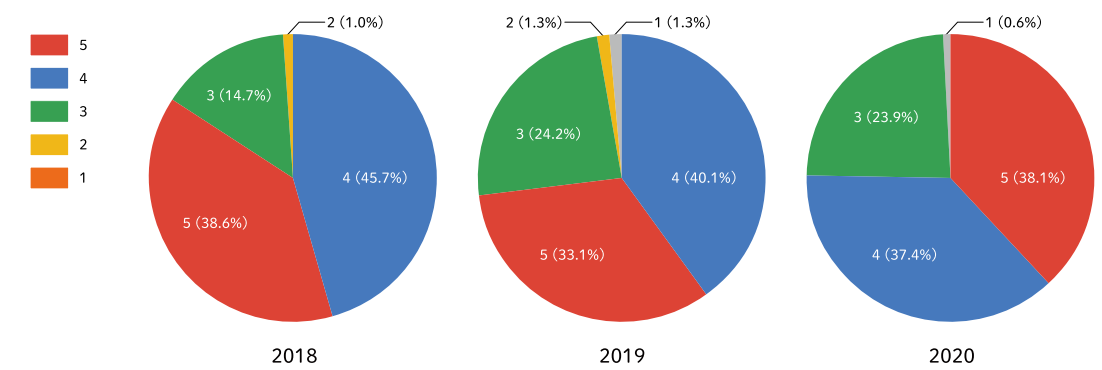
参加登録者数



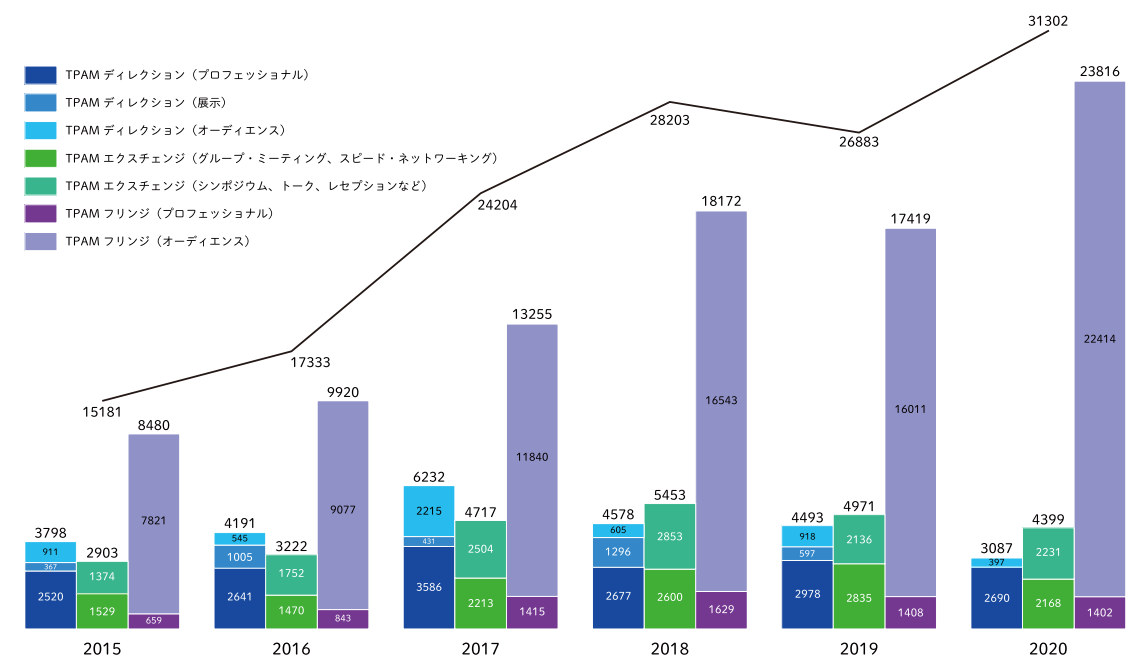
TPAM 参加回数



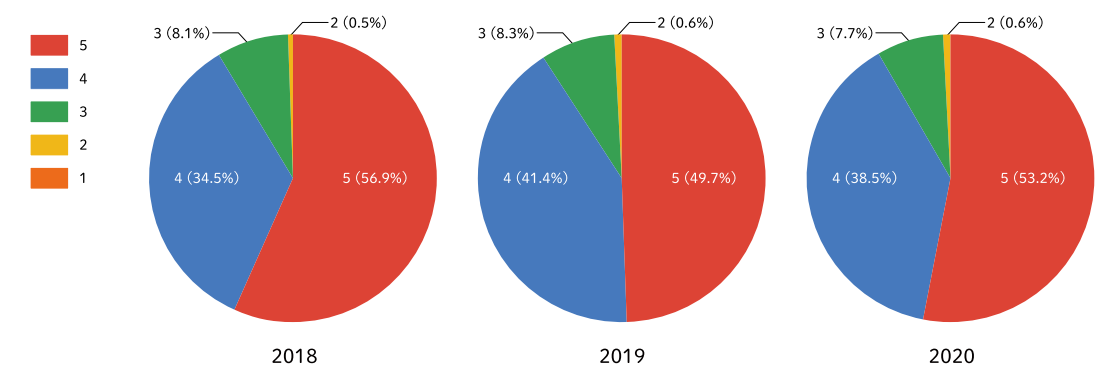
アジア・フォーカス評価 (5 段階)



来場者数



参加満足度 (5 段階)



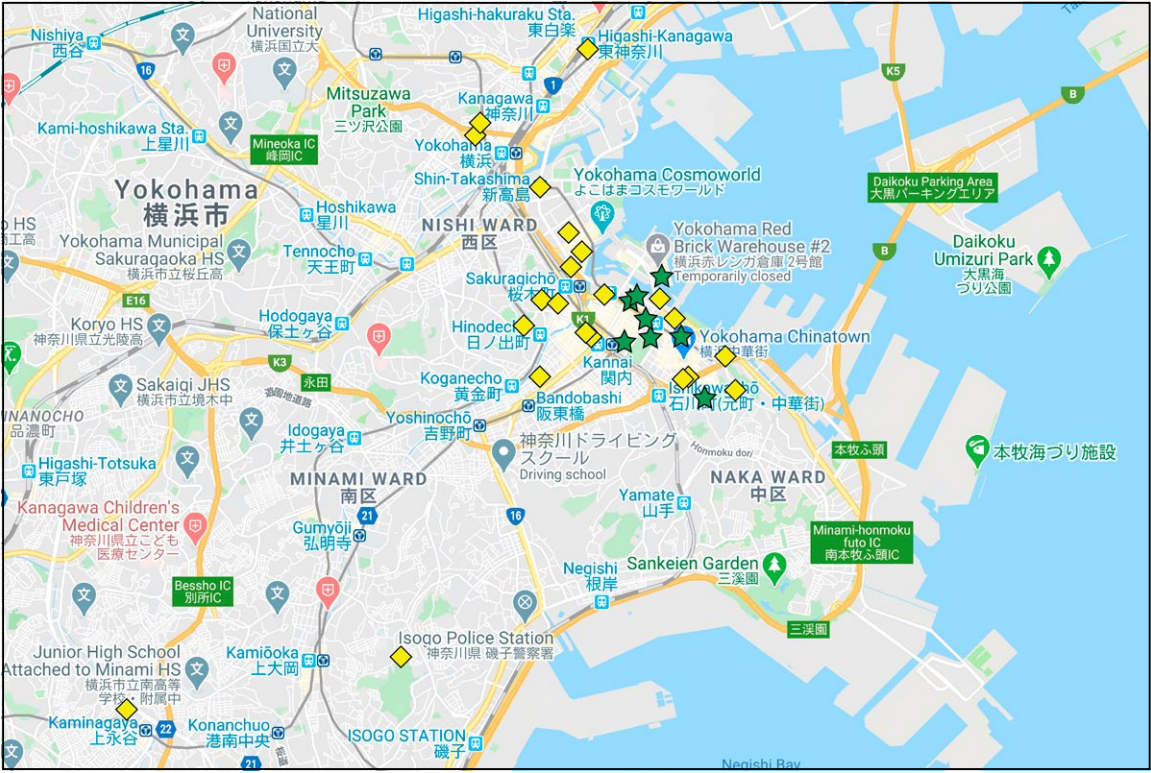
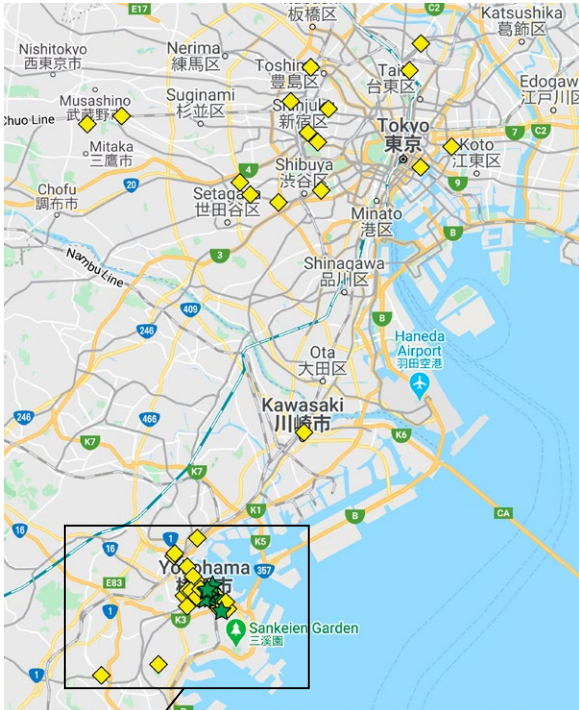
会場分布

	横浜会場	東京会場	合計
2015	19	10	29
2016	19	14	33
2017	21	17	38
2018	28	15	43
2019	30	11	41
2020	32	15	47

*同会場内の複数のスペースが使われた場合や同会場が複数のプロジェクトに使われた場合、1会場として集計。「東京会場」は川崎市1件を含む。

★ TPAM ディレクション、
TPAM エクスチェンジ会場
(一部会場は TPAM フリンジでも使用)

◆ TPAM フリンジ会場



横浜市営地下鉄ブルーライン 車内 (「次世代舞台芸術制作者等育成事業 @TPAM2020」メンバー)



Photo by Yuri Yamada

基調講演：金満里氏を迎えて

ダンスと身体表現にフォーカスした第24回TPAMの基調講演は、横浜市開港記念会館の講堂で開催。1995年の第1回TPAM（芸術見本市）のショーケースに出演し、今回のTPAMディレクションに四半世紀ぶりに登場することになった劇団態変の主宰・演出、**金満里氏**を招き、劇団設立以来一貫して追求している重度身体障害者による身体表現の「芸術性」と、その芸術を通した価値観の「革命」のヴィジョンについて語っていただいた。個々の俳優の身体と具体的に向き合いながら積み上げられた論理的で非妥協的な金氏の社会分析と芸術論に、「そこまで考えたことはなかった」など、ポジティブな衝撃を受けたという反響が届いている。TPAMディレクションのゲストディレクターの一人、コ・ジュヨン氏は、この講演とTPAMディレクションでの態変の公演について、韓国のウェブマガジン『webzine』に精度の高いレポートを寄稿している。また、態変が1994年から継続して発行している情報誌『イマージュ』2020年春号には、TPAMディレクター丸岡ひろみと金氏との対談が掲載された。全期間滞在してTPAMのプログラムをご覧いただいたが、韓国伝統舞踊家を母親に持つ金氏は、伝統と対峙し乗り越えようとするピチュ・克蘭チェンの『No. 60』（15、22頁参照）に大いに共感し触発されたようである。

また、同じく開港記念会館講堂で、提携事業として劇場、音楽堂等連絡協議会（劇音協）によるシンポジウム「日本の劇場、音楽堂等が『世界への窓』となるために」を開催。東京芸術劇場、世田谷パブリックシアター、愛知県芸術劇場、ロームシアター京都という日本を代表する公共劇場からの登壇者を



Photo by Yuri Yamada

劇音協シンポジウム | 左から溝口健氏（世田谷パブリックシアター）、内藤美奈子氏（東京芸術劇場）、林健次郎氏（愛知県芸術劇場）、齋藤啓氏（ロームシアター京都）



Photo by Yuri Yamada

グループ・ミーティング

派遣団	国／地域	人数
PAHN (Performing Arts Hub Norway)	ノルウェー	16
CINARS	カナダ	15
CAPACOA (Canadian Association for the Performing Arts)	カナダ	14
国家文化芸術基金会	台湾	13
Australia Council for the Arts	オーストラリア	11
Dutch Performing Arts	オランダ	7

迎え、劇場、音楽堂等の役割の一つとして「劇場法」にも記されている国際交流についての事例紹介や意見交換が行なわれた。その後の国際交流の分断を乗り越えてその知見が今後も生かされてゆくことを期待したい。

参加者自身がテーマを提案し開催する「グループ・ミーティング」、1対1・15分間の予約制ミーティング「スピード・ネットワーキング」は、前回から開港記念開館の中小規模の会議室を活用して開催され、TPAMエクスチェンジの中心的プログラムとして参加者間の売り手・買い手の関係にとどまらないネットワーキングを促進した。今年は総計5,560分のミーティングに延べ約2,000人が参加。BankART Studio NYK閉館による主会場の移転問題を前年度に解決し、新会場である開港記念会館の特性を把握した上で、今年は事前の情報共有、個々人の事情に合わせたファシリテーション、映像・音響機器や通訳の提供、視認性の高いサイネージや掲示物など、参加者への対応をより細やかに行ない、ミーティングの充実と参加満足度の向上につなげることができた。

COVID-19により来日を見合わせた中国からの参加者がオンラインでのディスカッションに切り替えるなどの対応もすでに見られたが、ほとんどのミーティングは「コロナ前」のスタンダードで違和感なく実施された。台湾、ノルウェー、カナダ、オーストラリアのアーツカウンシルや支援団体による派遣団が開催したレセプションやパーティーも盛況で、1階で常時営業したカフェはプログラムの合間に非公式のミーティングや情報交換に活用され、満席になる時間帯も少なくなかった。

前回に引き続き、舞台芸術の分野におけるアーティスト・イン・レジデンス（AiR）の重要性を考える「舞台芸術AiRミーティング」を公益財団法人セゾン文化財団と共催。マレーシア、シンガポール、韓国、日本のAiR施設／プロジェクトを紹介し、ゲストアーティスト（市原佐都子）を迎えて創作プロセス、コミュニティとの有機的な関係性、AiRの役割や可能性について議論を展開した。今回は同財団が運営する森下スタジオのレジデンス施設見学会も併催し、実際にスタジオを使用しているセゾン・フェロー（岩淵貞太、三東瑠璃）によるプレゼンテーションも行なった。舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）は、「芸術活動への公的支援と表現の自由について考える」と題し、二部構成のシンポジウム／オープン・フォーラムを開催。第一部ではあいちトリエンナーレへの文化庁補助金不交付について法律、制度、政策の面から考察（翌月、文化庁は減額交付を決定）、第二部では香港、台湾からのゲストを招き自由なディスカッションを展開した。

金満里氏による基調講演に加え、アジアのダンス／身体表現にフォーカスしたプログラムを複数実施した。アジア・ネットワーク・フォー・ダンス（AND+）は、TPAM2017でON-PAMが実施したシンポジウム「アジアにおけるダンスハウス・ネットワーク構想」、TPAM2018で横浜ダンスコレクションと共催し

たパブリック・トーク「アジアのダンスネットワークを強化する」を経て、2018年5月に香港で成立したネットワーク。Facebookグループは現在1,802人のメンバーを擁する。今回、アジア6ヵ国からのコアメンバーを迎え、横浜ダンスコレクションやHOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォームの参加者も交えてディスカッションとワークショップを実施した。テーマは、シンガポールで2019年10月に開催されたミーティングに引き続き、ディスカッション、ワークショップとも、ダンスの現場における「芸術的実践の展開」「レジデンシーへの期待」「倫理的ガイドライン策定」の3つ。同じテーマを継続的に掘り下げることで、理論的にも実践的にも豊かな成果が得られ、今後の活動の指針となった。国際交流基金アジアセンターと株式会社パルコによる「DANCE DANCE ASIA — Crossing the Movements (DDA)：ストリートダンスによる国際共同制作プロジェクトの最新動向」では、それまでの5年間に9ヵ国で17回の公演を実施し、延べ35,000人を動員したストリートダンスの国際共同制作プロジェクトを紹介。ベトナム、タイ、日本の参加ダンサーを迎えてストリートダンスの可能性をめぐる議論が交わされた。TPAMディレクションで初の日本公演を行なった（19頁参照）パドミニ・チェターは、「思考する身体」と題し、インド古典舞踊のフォルムを脱構築したラディカルなモダニスト／フェミニスト、チャンドラレーカ（1928～2006）の業績とそれが自身に与えた影響についてレクチャーを行なった。

会期後半には、2019年に拠点を豊岡に移し「豊岡演劇祭」を立ち上げた平田オリザ氏を迎え、演劇祭の構想と「演劇のまち・豊岡」実現に向けてのヴィジョンを語っていただいた。その後、今年9月の第1回豊岡演劇祭は出演者とスタッフに原則PCR検査を義務付け、客席を定員の半分に以下の開催となり、「フリンジ」枠にはCOVID-19の影響で公演を延期／中止した団体を優先的にプログラム、最大50万円の制作支援金を提供している。新しい地域型演劇祭の芸術的・社会的展開を注視したい。また、最終日には2018年から提携事業として実施しているヨコハマアートサイトによる「アートサイトラウンジ」を開催。「アートと地域の関わり」をテーマに、横浜におけるアーティスト・イン・レジデンス、障害者地域活動ホーム、街中でのパフォーマンス活動についての事例報告とディスカッションを展開した。

参加者招聘費に依存した国際交流ではなく、海外からの参加者の大部分が自費で参加する（TPAM2020では82.6%が自費参加で、招聘者17.4%にはTPAMディレクション出演者なども含まれる）自発的国際交流が実現していることはTPAMの国際的認知を示す指標のひとつだが、今年はアジア・カルチュラル・カウンシルの渡航費助成を得て、アジアのキーパーソンや若手の参加を促進し、TPAMエクスチェンジ全体の参加者層の厚みを増すことができた。2020年9月現在、渡航費助成という枠組みが実質的に機能しない状況ではあるが、今後も協力関係を継続していきたい。

プログラムを締め括るクロージング・パーティーは、元町の老舗ダンスホール「クリフサイド」でTPAMディレクションの最終公演と連続して開催した（23頁参照）。



アジア・ネットワーク・フォー・ダンス (AND+)

Photo by Hideo Maezawa



クロージング・パーティー

Photo by Hideo Maezawa

プログラム		登壇者	登壇者 拠点国・地域
エクスカーション：セゾン文化財団 森下スタジオ見学会		岩渕貞太、Co. Ruri Mito	日本
舞台芸術 AiR ミーティング		荒井洋文（一般社団法人シアター&アーツうえだ 代表理事）、市原佐都子（劇作家・演出家・小説家／Q 主宰）、タン・イージャン（トッカータ・スタジオ 設立者／クリエイティブ・プロデューサー／INXO 芸術文化基金会 CEO）、バク・ジスン（クリエイティブ・プロデューサー）、マー・ヤンリン（Centre 42 カンパニー・マネージャー）、モデレーター：稲村太郎（公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・オフィサー）	日本、韓国、シンガポール、マレーシア
基調講演：金満里氏を迎えて		金満里、モデレーター：丸岡ひろみ（PARC – 国際舞台芸術交流センター 理事長／TPAM – 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 ディレクター）	日本
劇協シンポジウム：日本の劇場、音楽堂等が「世界への窓」となるために ～地域コミュニティから国際会議まで～		滝口健（世田谷パブリックシアター 管理・事業調整担当マネージャー）、内藤美奈子（東京芸術劇場 制作担当課長）、林健次郎（愛知県芸術劇場［公益財団法人愛知県文化振興事業団］企画制作部長代理兼広報・マーケティンググループ チーフマネージャー）、司会：齋藤啓（ロームシアター京都）	日本
ARTWAVE 台湾レセプション		ARTWAVE	台湾
Hei! Moi! 北欧式朝食レセプションによるこそ		PAHN / Performing Arts Hub Norway	ノルウェー、フィンランド
ケベック（カナダ）のアーティスト／カンパニー紹介のプレゼンテーション		CINARS	カナダ
オーストラリアダンスプログラム紹介・交流レセプション		オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ	オーストラリア
舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）シンポジウム&オープン・フォーラム「芸術活動への公的支援と表現の自由について考える」	第1部 シンポジウム：芸術活動への公的支援と表現の自由について考える～「あいちトリエンナーレ」への文化庁補助金不交付問題から	志田陽子（武蔵野美術大学 教授／法学博士）、作田知樹（Arts & Law ファウンダー／文化政策［文化行政］研究者・実務家）、相馬千秋（NPO 法人芸術公社 代表理事／あいちトリエンナーレ 2019 舞台芸術キュレーター）、塚口麻里子（ON-PAM 理事長・事務局長）、司会：齋藤啓	日本
	第2部 オープン・フォーラム：芸術活動への公的支援と表現の自由について考える～国際プラットフォーム＝TPAM の参加者と共に	ロウ・キーホン（西九文化区 演劇部門統括）、キャシー・ホン（Performing Arts Network Development Association 理事長／クラウドゲイト・ダンスシアター、Vocal Asia Festival 顧問）、モデレーター：丸岡ひろみ	日本、香港、台湾
『DANCE DANCE ASIA – Crossing the Movements (DDA)』ストリートダンスによる国際共同制作プロジェクトの最新動向		3T（Phạm Khánh Linh）、KATSUYA、Nikii、FISHBOY	日本、ベトナム、タイ
思考する身体		パドミニ・チェター	インド
アジア・ネットワーク・フォー・ダンス (AND+)	全体会議 ・ AND+ について ・ ダンスにおける芸術的実践の展開 ・ レジデンシーの文脈で何が期待されているか ・ プロフェッショナルな実践のための倫理的ガイドライン策定のすすめ	小野晋司（横浜赤レンガ倉庫 1 号館 館長）、ダニエル・コック（Dance Nucleus 芸術監督）、アナ・CY・チャン（香港演芸学院 舞踊学部長／西九文化区 ダンスアドバイザー）、ジャヤチャンドラン・パラジー（Attakkalari Centre for Movement Arts 芸術監督）、ジャッキー・フン（City Contemporary Dance Company 制作）、ビルキス・ヒジャス（MyDance Alliance 代表／Rimbun Dahan ダンスプログラムディレクター）	日本、シンガポール、香港、インド、マレーシア

プログラム		登壇者	登壇者 拠点国・地域
アジア・ネットワーク・フォー・ダンス (AND+)	ワークショップ・セッション ・ダンスにおける芸術的実践の展開 ・レジデンシーの文脈で何が期待されているか ・プロフェッショナルな実践のための倫理的ガイドライン策定のすすめ	クレア・ヒックス（Critical Path ディレクター）、アンジェラ・コンケ（Dancehouse CEO・芸術監督）、ジャラ・アドルフス（インディペンデント・プロデューサー）	オーストラリア、インドネシア
進化系演劇祭「豊岡演劇祭」について：「演劇のまち・豊岡」実現に向けて		平田オリザ	日本
横浜で、アートと地域の関わりについて考える場・アートサイトラウンジ		福田毅、山田カイル（若葉町ウォーフ）、安武宗吾（磯子区障害者地域活動ホーム）	日本
グループ・ミーティング テーマ		ホスト拠点国・地域	
私はここへ、あなたはそこへー“エクステンジ”とは何か？		マレーシア、日本	
アトリエ銘苅ベースでの滞在制作について		日本	
【超ダイバーシティ芸術祭】 演目を通じたアクセシビリティ環境への取組みのご紹介		日本	
都市横断ネットワークの形成		日本	
相互的な国際ネットワークングへのアプローチ		カナダ	
2020 Want to Dance Festival と Shinehouse Theatre（暁劇場）のオープン		台湾	
シアター・オブ・ライト		ニュージーランド	
APP（アジア・プロデューサーズ・プラットフォーム）キャンプ 2019 報告会		日本	
国際共同製作のプロセスー F/T19「オールウェイズ・カミングホーム」 ケーススタディ		日本、ポーランド	
セゾン文化財団の助成プログラムについて		日本	
豪日共同制作：アーティストと食卓で食・音楽・語りを共有する新しい芸術体験		日本	
ADAM Artist Lab のキュレーションプロセス		日本、台湾、カンボジア	
2020 年「ふじのくににぎせかい演劇祭」と「ストレンジシード静岡」のプログラム説明		日本	
障壁と突破口：マカオ、あるは大湾区における共同制作		マカオ、香港、中国	
梅田宏明の今後のプロジェクト（振付、インスタレーション、振付家ワークショップ他）		日本	
国際交流基金の助成プログラムの紹介		日本	
オランダのエキサイティングなパフォーミングアーツについて		オランダ	
カナダのパフォーミングアーツ界の展望		カナダ、米国	
フロップトレーニング プロジェクト：トレーニングを flop させるには		台湾	
リトアニアの現代美術と日本演劇作品の共同制作から今後の可能性について		日本	
F/T19 日・ポ国際共同制作「オールウェイズ・カミングホーム」の作品紹介と成果報告		日本、ポーランド	

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
ARTWAVE トーク：National Culture and Arts Foundation, Taiwan の紹介	台湾
舞台芸術の広報を考える	日本
Artist Farm の紹介 — Theatre Practice による Artist Residency	シンガポール
地域アーツカウンシルラウンドテーブル 2020 芸術と社会 ～地域アーツカウンシルの可能性と展望～	日本
アーティスト サロン レセプション CAPACOA（Canadian Arts Presenting Association）	カナダ
フィンランドとノルウェーからの舞台芸術の経験	フィンランド、ノルウェー
シンガポールにおける自主制作	シンガポール
ARTWAVE トーク：アーカイブ精神 — 創造性としてのダンスアーカイブ	台湾
Very Theatre — 国際共同制作への甘美なる冒険の旅	台湾
狭間にいること：中国の 1990 年代生まれのアーティストとその活動	中国
TPAC アーティストを中心としたクリエイティブ ハブ — TPAC のプラットフォームとプロジェクト	台湾、フランス
障壁と突破口：ダンス映像に何ができるか？	香港、マカオ、シンガポール
舞台芸術のためのアーティスト・イン・レジデンス：城崎国際アートセンターの紹介	日本
世界最大のフェスティバルにおけるアーティストネットワークの可能性	日本、英国
アーティストのための創造的なハブとしての TPAC — ADAM の創造的及びリサーチプロセス	台湾、オーストラリア、韓国
舞台芸術界のハラスメントや性暴力について一緒に考えませんか？	日本
セゾン・アーティスト・イン・レジデンス	日本
神里雄大 × マーク・テリサーチ・コラボレーションプロジェクト	日本
ケベック（カナダ）のアーティスト／カンパニー紹介のプレゼンテーション	カナダ
「からだの速度で」フェスティバル/トーキョーの展望	日本
英国の野外公演の紹介	英国
新たな文化政策と観客の認知についての提案～タイにおける現代の舞台芸術シーンを例に～	タイ
アーツコミッション・ヨコハマ助成プログラムのご紹介	日本
ウェールズと舞台芸術	英国
分散型から参加型へ	香港
ARTWAVE トーク：未定義 — 次世代の踊り手プラットフォームに向けた実践	台湾
アジアの舞台芸術制作者／ネットワーク／プラットフォームとの連携について	日本
あいちトリエンナーレ 2019からシアターコモンズ ’20 へ：キュレーションの意義と実践	日本
東京芸術祭のご紹介	日本

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
伝統芸能における国際共同制作と創作、異分野・異文化との協働について	日本
「秘すれば花」を越えて：舞台芸術における「ことば」の重要性の高まりについて	日本
“Hello, See you.” ―「アジア」という認識の枠を越えて―	日本
次世代とは誰か？ ― 次世代舞台芸術制作者等育成事業 @TPAM2020	日本、ベトナム、マレーシア、フィリピン、シンガポール、インドネシア
アジア現代サーカスネットワーク「CAN」と日本におけるネットワーキング構築	日本
東京芸術祭 APAF（アジア舞台芸術ファーム）の目指す育つ場	日本
全国学生演劇祭の紹介及び地域演劇の若手人材育成について	日本
アジアと日本の現代サーカスネットワーキングについて、オープンディスカッション	日本
劇場で子どもたちと向かい合うために	日本、中国
下町で劇場を開く、ダンスを通じてコミュニティや人々と展開してきた 10 年間の過程。	日本
オーストラリア関連ダンスプログラム紹介・レセプションのご案内	オーストラリア
アジア圏における児童劇の行方	日本、中国
東京芸術劇場の企画制作ポリシーとストラジェディ	日本
スピード・ネットワーキング ホスト	ホスト拠点国・地域
Angela Conquet（Dancehouse CEO 兼芸術監督）	オーストラリア
Irene Segura（XTRAX, Without Walls 国際担当兼アーティスト育成）	英国
Mirna Zagar（The Dance Centre 事務局長）	カナダ
Natalie Hennedige（シンガポール・アーツ・フェスティバル 芸術監督）	シンガポール
小野晋司（横浜赤レンガ倉庫 1 号館 館長／公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 チーフプロデューサー [ダンス]）	日本
吉田雄一郎（城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター）	日本
荒井洋文（一般社団法人シアター & アーツうえだ 代表理事）	日本
多田淳之介（東京芸術祭 APAF アジア舞台芸術人材育成部門 ディレクター）	日本
矢作勝義（穂の国とよはし芸術劇場 芸術文化プロデューサー）	日本
Oxana Efremenko（Chaos 国際演劇祭 芸術監督）	ロシア
Sasapin Siriwanij（BIPAM 芸術監督）	タイ
Sven Birkeland（BIT Teatergarasjen 芸術監督兼経営責任者）	ノルウェー
河合千佳（フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター）	日本
Hannah Sharpe（Dance4 プログラムディレクター）	英国
岩田浩（ST スポット 館長）	日本

スピード・ネットワーキング ホスト	ホスト拠点国・地域
Hsin-Yuan SHIH（國家兩廳院 プログラム兼国際交流部門責任者）	台湾
Javier Rojas Trejo（Theaters System Management アーティスティックプログラマー）	メキシコ
塩谷陽子（Japan Society 芸術監督）	米国
Ana Luísa Sirota（Sesc Bom Retiro 次長）	ブラジル
副島綾（舞台芸術アドバイザー）	フランス
田中未知子（瀬戸内サーカスファクトリー [SCF] 代表者兼創立者）	日本
内藤美奈子（東京芸術劇場 制作担当課長）	日本
Park Jisun（クリエイティブプロデューサー）	韓国
Priit Raud（バルトスキャンダル・フェスティバル 芸術監督）	エストニア
相馬千秋（シアターコモンズ ’20 実行委員長兼ディレクター）	日本
Chiara Organtini（Santarcangelo Festival キュレーター）	イタリア
Jeff Khan（Performance Space 芸術監督兼 CEO）	オーストラリア
Michael Caldwell（Fall for Dance North 制作総責任者／ Festival of Dance Annapolis Royal 副芸術監督）	カナダ
藤田直義（高知県立美術館 館長）	日本
川崎陽子（KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター）	日本
Austin Wang（Taipei Performing Arts Center [TPAC] ディレクター）	台湾
横堀ふみ（NPO 法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター）	日本
林健次郎（愛知県芸術劇場 [公益財団法人愛知県文化振興事業団] 企画制作部長代理兼広報・マーケティンググループ チーフマネージャー）	日本
Victor Roussel（Théâtre de la Bastille 芸術アドバイザー）	フランス
里見有祐（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 広報 ACY グループ）	日本



『No. 60』



『セッション 19 - 地域でのダンス儀式』

今年のTPAMディレクションでは、横浜ダンスコレクションが実施した第3回「HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム」のプログラムと連携し、ダンスと身体表現に重点を置いたプログラミングを行なった。11演目中8演目をKAAT神奈川芸術劇場のホール、大スタジオ、中スタジオで上演。これまで同様、KAATからはスペースの提供にとどまらずスタッフや機材についても全面的協力を得た。他に、主に黄金町周辺のコミュニティでの「ダンス儀式」を1演目（およびその「共有セッション」をKosha33にて実施）、横浜ポートシアターで1演目、元町の丘に「山手舞踏場」として1946年に開場したダンスホール「クリフサイド」で1演目を上演した。

TPAMディレクションがジャンルに特化したのは今回が初めてである。一般的なコンテンポラリー・ダンスの規範から多かれ少なかれ逸脱する作品もあったとはいえ、ヴィジュアル・アーツ、サウンド・アート、レクチャー・パフォーマンスなどを積極的に取り入れたここ3年ほどの折衷主義的プログラムに比して制作的・技術的不確定要素が少なく、精度の高い作り込みを可能にする伝統／コード／技術体系としてのジャンルの力を再評価する機会ともなった。

TPAMが「マーケット」から「ミーティング」に改称した2011年に、日本の若手舞台芸術制作者をゲストディレクターとして招き（任期は原則3年間）、集客ノルマに拘束されずにプログラミングと制作の実験を行なう機会を提供し、その試みを国内外のプロフェッショナルと共有する場として開始したTPAMディレクションだが、アジア・フォーカスを打ち出したTPAM2015でタン・フクエン氏（当時インディペンデント・ドラマトゥルク、現在台北芸術祭芸術監督、シンガポール）を迎えて以降は、海外拠点のゲストディレクターと海外の作品が増加。その結果、国内での制作業務の大部分を事務局が代行することになり、ゲストディレクターの役割が制作からキュレーションへと大きくシフトした。

また、それまでTPAMディレクションと並行して実施していた、海外の支援団体との提携による「イ

ンターナショナル・ショーケース」、TPAMが参入する国際共同製作を紹介する「TPAMコプロダクション」などの要素をTPAMディレクションに、国内の支援団体や会場との提携企画「TPAMディレクションPlus」などの要素をTPAMフリンジに統合し、TPAM2017でエクスチェンジ、ディレクション、フリンジの3カテゴリーでのプログラム構造が確立した。アジア・フォーカスのミッションと予算拡大により、プログラム全体の文脈化を図るための事務局によるメタ・キュレーションや国際共同製作への参入が必要かつ可能になり、TPAMディレクションの公演プログラムとしての質、規模、一貫性が向上したことは、近年の海外からの参加者数増大にも寄与していると思われる。なお、これまでにTPAMが参入した国際共同製作は以下の9作品、

- ・ ピチェ・克蘭チェン（タイ）『Dancing with Death』
- ・ マーク・テ（マレーシア）『Baling』
- ・ エコ・スプリヤント（インドネシア）『Balabala』
- ・ サイレン・チョン・ウニョン（韓国）『変則のファンタジー_韓国版』（TPAMでは「日本版」を上演）
- ・ ホー・ツーニエン（シンガポール）『神秘のライ・テク』
- ・ ファイブ・アーツ・センター（マレーシア）『仮構の歴史』（ワーク・イン・プロGRESS）
- ・ ファーミ・ファジール（マレーシア）+山下残（日本）『GE14』
- ・ エコ・スプリヤント（インドネシア）『イブイブ・ベルー：国境の身体』
- ・ ピチェ・克蘭チェン（タイ）『No. 60』

TPAMディレクションの歴代ゲストディレクターは以下の14名である（所属、肩書きは当時のもの）。

- ・ 中村茜（株式会社プリコグ 代表取締役／NPO法人ドリフターズ・インターナショナル 理事、2011～2012）
- ・ 小倉由佳子（アイホール [伊丹市立演劇ホール] ディレクター／ロームシアター京都 事業担当、2011～2013／2020）
- ・ 野村政之（こまばアゴラ劇場 制作／演劇制作者、2011～2012／2014～2015）
- ・ 大平勝弘（STスポット 館長、2012～2014）
- ・ 宮永琢生（制作者／プロデューサー、2013～2015）
- ・ 横堀ふみ（NPO法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター、2014～2015／2017／2020）
- ・ タン・フクエン（ドラマトゥルク／キュレーター／プロデューサー、シンガポール、2015～2017）
- ・ コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国、2016／2018／2020）
- ・ 加藤弓奈（急な坂スタジオ ディレクター、2016～2018）
- ・ 中島那奈子（ダンス・ドラマトゥルク／ダンス研究、2016）
- ・ 恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国、2016～2019）
- ・ ジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア、2018～2020）
- ・ マックス＝フィリップ・アッシュエンブレナー（ルールトリエンナーレ ヘッド・ドラマトゥルク／舞台芸術プレゼンター、ドイツ、2018～2020）
- ・ ヘリー・ミナルティ（インディペンデント研究者／キュレーター、インドネシア、2020）

2011年から2020年までの上演作品（展示など含む、公募プログラムを除く）を25頁以降の一覧にまとめたので参照されたい。今回で政府の掲げる「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」による期間限定での予算拡大が終了した。TPAM2015～2020のアジア・フォーカスの成果、およびTPAM2020閉幕後の3月11日にWHOがパンデミックを宣言した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への諸政府の対応が世界の舞台芸術界と国際的モビリティに与えたインパクトを踏まえての、新たな催事構造の検討とプログラムの再編が次年度の課題となる。

今回は、ダンスのプログラムを充実させるため、ダンスを専門とする過去の日本拠点のゲストディレクター、横堀ふみ氏と小倉由佳子氏を再度迎えた（同じくダンスを専門とする中島那奈子氏は、2016年のTPAMディレクションで実施した「ダンスアーカイブボックス」をTPAM2020と同時期にベルリン芸術アカデミーで実施することになっていたため参加が叶わなかったが、同プロジェクトは大成功に終わったとの報告を受けている）。また、2009年にアジア7ヵ国からゲストを招いてTPAMと併催した「舞台芸術制作者ネットワーク会議」以来交流を続けているヘリー・ミナルティ氏（ダンス研究者／キュレーター、インドネシア）を今回限定で迎えた。今回で任期終了のジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）、コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国）、マックス＝フィリップ・アッシュエンブレナー（舞台芸術プレゼンター、ドイツ）各氏と合わせて6名の布陣となったが、アッシュエンブレナー氏はTPAMフリンジ登録公演の庭劇団ペニノ『蝸入道 忘却ノ儀』にドラマトゥルクとして参加するため、TPAMディレクションへの参加を辞退。今年のゲストディレクターは4ヵ国5名、全員女性の顔ぶれとなった。なお、庭劇団ペニノの公演はCOVID-19とは無関係の技術的理由で中止されたが、アッシュエンブレナー氏の招聘は予定通り行ない、プログラム全体についての有意義なフィードバックを得た。

今回で全てのゲストディレクターが「卒業」した。次回以降もこの原則3年任期のゲストディレクター制という形態を継続するか否かは検討中だが、東日本大震災と原発事故の直前に開催したTPAM2011年以来的10年間、時代に呼応しながら野心的なプログラムを提案してくださった2011～2020のゲストディレクター14名に、改めて感謝と敬意を表したい。

TPAM2018のディレクションで、あえて公演を実施せず連続シンポジウム「プログラミングのポリティクス」を開催し、「プラットフォーム」「プレッシャー」「パティシペーション」という3つの「P」を考察したタン氏は、マレーシア第14回総選挙のプロセスと結果に直接間接に「パティシペート」する2作品を紹介したTPAM2019に続き、ダンスを通して地域コミュニティに直接介入する長期的プロジェクト、リー・レンシン（マレーシア）『セクション19 - 地域でのダンス儀式』を提案した。シンガポールやニューヨークでダンスを学んだリーは、

TPAM2020の約1年半前にクアラルンプール近郊の地区「セクション19」でこのプロジェクトを開始し現在まで継続している（この報告書の表紙写真は同地区でリーが撮影したもので、TPAM2020のメインヴィジュアルに採用した）。具体的には、リーが私的な「儀式」としてのダンスを毎日その地域の任意の場所で告知なしに行ない、「あるひとつの身体が存在、移動、逸脱にどの程度の空間が与えられているか」を検証しつつ、地域住民とのインタラクションが起こるに任せるというもの。地域交流の展開や作品化がプロジェクトの目的として設定されているわけではないが、次第に「いつもあのあたりで踊っている人」として地域住民に認知され、話しかけられ、コンテンポラリー・ダンスや自身の活動について説明などしているうちに、子供たちとの定期的なワークショップが開催されるようになったという。TPAMでは黄金町を中心に時間と場所を変えながら7日間にわたって儀式を執り行ない（「観客」を排除するものではなく、基本的に毎日場所と時間を告知したが、場所を特定することが難しい告知内容の日もあった）、8日目には



『セクション19 - 地域でのダンス儀式』

そのプロセスを報告する「共有セッション」を実施した。同プロジェクトはその後、現地のロックダウンにより一時休止を余儀なくされたが、この報告書が上梓される頃には再開していることを期待する。

Photo by Hideo Maezawa



『箱庭弁当』

小倉氏と協力して大阪から招聘した劇団態変は、第1回TPAM（芸術見本市、1995年）のショーケースに出演して以来四半世紀ぶりの登場。日本演劇史において唯一無二のユニークな集団、かつ身体障害者による表現の事例としても思想的・実践的に類例を見ない存在であり、この25年の間も国内にとどまらずヨーロッパ、アフリカ、東・東南アジアなどで独自に活動を展開していた態変だが、TPAMの公式プログラムとして紹介することで国際的プレゼンスをより確実なものにすることができたことは大きな成果である。台詞のないフィジカル・シアターを基調とする態変のレパートリーには大野一雄・大野慶人監修による作品もあり、身体表現を通したラディカルな問題提起はダンスの思考にも通じる。今回上演した『箱庭弁当』は、「さ迷える愛～序・破・急」三部作の「破」に当たる最新作で、態変としては珍しい「ファンタジー」だが、捨てられた弁当の具たちが放浪するという物語には、2016年の相模原障害者施設殺傷事件で先鋭化した危機意識と、優生思想に対する一貫した抵抗のメッセージが込められている。態変のトレードマークとも言える、重度身体障害者の身体の輪郭を明瞭に見せるレオタードは、この作品ではタコウインナー、タクアン、梅干しなどを色で表現しており、介護者も器具も使わない態変のパフォーマンスに初めて触れる海外の舞台芸術関係者を大いに挑発するとともに、日本の観客をその力強いユーモアで驚かせた。演出の金満里氏にはTPAMエクスチェンジの基調講演にも登壇していただき（7頁参照）、態変が1994年から継続して発行している情報誌「イマージュ」2020年春号にはその採録、TPAMディレクター丸岡ひろみと金氏の対談、TPAMのレポートや劇評が掲載された。三部作の最後となる「急」に当たる『心と地』の初演が今年5月に伊丹アイホールで予定されていたが、COVID-19対応により来年3月に延期。監禁、排除、選別をめぐってこの状況に応答する奇抜な内容になりそうと聞いており、発表が待ち望まれる。

Photo by Hideo Maezawa



『哲学の実演 1&2』

小倉氏と協力して大阪から招聘した劇団態変は、第1回TPAM（芸術見本市、1995年）のショーケースに出演して以来四半世紀ぶりの登場。日本演劇史において唯一無二のユニークな集団、かつ身体障害者による表現の事例としても思想的・実践的に類例を見ない存在であり、この25年の間も国内にとどまらずヨーロッパ、アフリカ、東・東南アジアなどで独自に活動を展開していた態変だが、TPAMの公式プログラムとして紹介することで国際的プレゼンスをより確実なものにすることができたことは大きな成果である。台詞のないフィジカル・シアターを

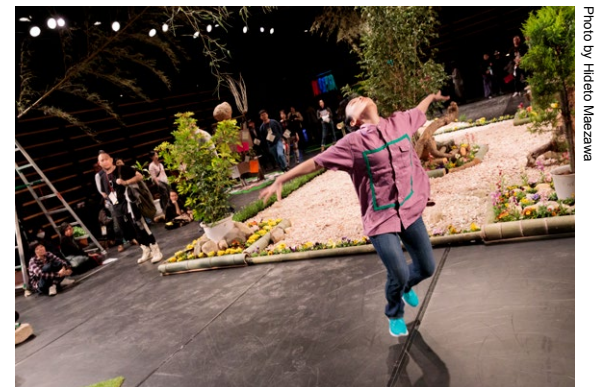
今回限定のディレクションを急遽依頼したミナルティ氏からの提案は、アジアにおけるコンテンポラリー・ダンスの歴史と実践に関する同氏の長年の考察に基づく一択。インド古典舞踊「バラタナティヤム」のフォームを脱構築したラディカルなモダニスト／フェミニスト、チャンドラレーカ（1928～2006）のもとで学び、そのプロセスを極限まで押し進めたミニマルな振付と集中力の高いダンスを確立したことで知られるパドミニ・チェター（インド）の初来日公演がTPAMで実現することになった。最新作『哲学の実演』では、チェターの知人であるライターや研究者が彼女のダンスを論じている声を用

い、それらの言葉／声とチェター自身のダンスが互いを分節してゆく。カナダで2019年4月に初演された第1部、TPAMが初演となった第2部を続けて上演した。TPAMエクスチェンジでは、チャンドラレーカをめぐるチェターのパブリック・トーク「思考する身体」を実施した（9頁参照）。

中間アヤカは、横堀氏がプログラム・ディレクターを務めるDANCE BOXの育成事業「国内ダンス留学@神戸」1期奨学生で、黒沢美香、木村玲奈、contact Gonzo、チェルフィッチュなどの作品に出演しながら自身の作品を構想、2019年3月に『フリーウェイ・ダンス』をDANCE BOXで発表し高い評価を得た。劇場空間内に生の土や植物を持ち込んで「庭」を作り、観客は自由にその中を回遊できるという状況での4時間に及ぶソロダンス作品で、中間の知人（ダンサーや振付家ではない）から採集した「最初に踊ったダンスの記憶」が「振付」となる。

「一見、牧歌的に」（横堀氏による作品解説より）、しかし巧妙に、既存のプロダクションシステムを解きほぐし、開放的でホスピタリティの高いパフォーマンスの時空間を現出。横堀氏が初回のディレクション（2014年）で提唱した「＜日々の営みにおける一つの必然＞、＜人々／ルーツ／共同体をゆるやかに接続するもの＞、＜劇場等で見せる行為＞としての『踊り』や『ダンス』を行き来する表現」を体現するようなパフォーマンスで、横堀ディレクションの総括としても、その任期中に他界した黒沢美香氏へのオマージュとしても、ふさわしい公演となった。物量の大きい仕込みと4時間という上演時間にも関わらず、海外のプレゼンターが高い関心を示し、香港やオーストラリア他からのオファーが相次いだ。国内のフェスティバルでの上演も決定している。

昨年タイと日本からそれぞれ3名のダンサー、ドラマトゥルクとして中島那奈子氏を招き公開ワークショップとして実施したタナボン・ウィルンハグン『退避』は、事物や他者から「退避」する身振りを採集・研究し振付の原動力とするというリサーチプロジェクトで、必ずしも上演を目的としない（ウィルンハグンは前回のTPAMの後、アーティスト・イン・レジデンスでパリに滞在し、『退避』の書籍化の構想を練っていた）。今回、上演を必須としないという条件で会場下見のための来日を依頼したが、いくつかの候補の中で、横浜ポートシアターが「ポップアップ・リトリート・プログラム」としての上演というアイデアにつながった。出演者は日本のダンサー4名に絞り、うち2名（児玉北斗、益田さち）は前回のワークショップ参加者。2014年にショーネッド・ヒューズとの共同作業でTPAMディレクションに出演している木村玲奈、今回TPAMフリンジ2演目（横浜ダンスコレクション「コンペティション I」参加と自主公演『振動する固まり、ゆるんだ境界』）と並行しての出演となった敷地理は、児玉、益田の推薦により選出。2ヶ月ほどのリモートでのワー



『フリーウェイ・ダンス』



『退避』

クショップを経て、会場でのリハーサル期間を長めにとり、身体技法／思考訓練としての「退避」をそれぞれが自分のものにした状態での上演が実現した。『退避』の特徴のひとつに、忌避のモメントを創り出すために他のダンサーや物にあえて積極的に接近する必要があるという逆説があり、その結果ダンスはしばしば「濃厚接触」や予測不能性に満ちたものになる。タイにおけるクーデターの繰り返しによる民衆の分断をも反映している振付リサーチプロジェクトだが、停泊中のダイヤモンド・プリンセス号からほど近い満員の小劇場での高密度なパフォーマンスは、その後の世界を予見するものでもあったかもしれない。

横浜ポートシアター主宰の遠藤啄郎氏が、『退避』のリハーサル初日、2月7日に91歳で亡くなり、遠藤氏が演出時にいつも座っていたという席に献花しての上演となった。ご冥福を祈る。

Photo by Hideto Maezawa



『nothing's for something』

Photo by Hideto Maezawa



『unannounced』

Photo by Hideto Maezawa



『unwritten conversation』

fieldworks（ベルギー／ノルウェー／日本）は、メグ・スチュアートのダンスカンパニーDamaged Goodsで出会った篠崎由紀子（日本）とハイネ・アヴダル（ノルウェー）がベルギーを拠点に2000年代に立ち上げたカンパニー（当初「deepblue」）。ダンサー、身体、物、環境への「非階層的アプローチ」を確立し、即物的でありながら多義的なサイト・スペシフィック・ワークを展開。ベルギー、ノルウェー、スウェーデン、ドイツなどの重要なフェスティバルや劇場に継続的に支持されている。稼働中の建築事務所を会場にした『Field Works - office』が日本人アーティストとのコラボレーションという形でTPAM2011で紹介され（Offsite Dance Project共催）、その後日本でのコラボレーションは住宅展示場やショッピングモールでの『横浜借景』（2011～2012）や青山スパイラルの全館を使った『“distant voices - carry on”～青山借景』（2015）として展開したが、TPAM2020ではヨーロッパで製作されたオリジナルのプロダクションを3作紹介した。『**nothing's for something**』はサイト・スペシフィック・ワークを展開した後にあえて「劇場」に戻った作品で、プロセニウム劇場の一般的要素、特に幕をダンサーと等価に扱い、劇場空間全体を異化するプロセスそのものがダンスとなる。『**unannounced**』は、同様の非階層的アプローチを用いながら、舞台裏やユーティリティ、それらを結ぶ階段や通路など劇場の建物全体で展開するいわゆるツアー形式パフォーマンス。KAAT神奈川劇場の協力を得て、建物の構造を入念にリサーチした上での実施が実現した。『**unwritten conversation**』はベルギー在住のダンス研究者／ドラマトゥル

ク、**サラ・ヤンセン**とのコラボレーションによる自己言及的なレクチャー・パフォーマンス。また、PACT Zollverein（エッセン）で2018年に開催されたレトロスペクティヴ「**fieldworks: Portrait**」のドキュメンタリーを会期中に限りTPAM参加者を対象にインターネット放映した。全体として、PACTでのそれに次ぐ規模のfieldworks特集となり、アジア、北米、ヨーロッパからの長期的協働プロジェクトを含む多くのオファーにつながり、カンパニーの実力にふさわしい国際的評価の定着に貢献できたようである。

今回の国際共同製作参入は2作品。共同製作者の顔ぶれについては43～44頁を参照されたい。

エコ・スプリヤント『イブイブ・ペルー：国境の身体』は、『Cry Jailolo』（TPAM2015、タン・フクエン・ディレクション）、『Balabala』（TPAM2017、国際共同製作）、『Salt』（TPAM2019）から成る北マルク／西ハルマヘラ／ジャイロロ三部作に続き、東ティモールとインドネシアの国境線付近の村々に伝わる伝統舞踊「リクライ」のリサーチに基づいて、現地のダンサーたちと作り上げた新作。国境の両側で踊られているリクライを通してそれぞれの個人史へ、それぞれの個人史を通して民族／地域／国の政治史へ迫る重厚な作品となった。TPAM 直前のKomunitas Salihara（ジャカルタ）でのワーク・イン・プログレス上演、TPAMでの世界初演を経て、AsiaTOPA（3月、メルボルン）へのツアーが確定していたが、残念ながらCOVID-19の状況により中止となり、フェスティバル・テアターフォルメン（7月、ブラウンシュヴァイク）では、ダンサーたちが製作した新型コロナウィルスのペルー県への影響についてのビデオが配信された。今後の上演機会に期待したい。

ピチェ・クランチェンは、TPAMディレクションの枠組では2回だが、TPAM主催公演全体として見ると、山下残に次ぐ最多出演アーティストである（『About Khon』『Black & White』『ピチェ・クランチェンと私』『Dancing with Death』『サムート・タイ』および今回、詳細は25頁以降参照）。タイ古典舞踊の59の型（テーパノン）のフォームやエネルギーを神話のナラティブから切り離し、精査し、その先にまだ見ぬ「60番」を追求するという構想をめぐるさまざまな形態の実験を長年に渡り継続していたが、それを見守り支援し続けていたタン・フクエンをドラマトゥルクに迎えての『**No. 60**』は、そのプロセスの最終段階と言ってもよい結実となり、「伝統／現代」というパラダイムを総括する、東南アジアのコンテンポラリー・ダンスの到達点の一つとして記憶されると思われる。TPAMでの世界初演は非常に高い評価を得て、各国からオファーが相次ぎ、タン・フクエンが芸術監督を務め同作品の共同製作者でもある台北芸術祭での8月の有観客上演は予定通り実現した。入国時、帰国時に2週間の隔離が義務付けられているにも関わらず渡航を希望したクランチェンの決意に敬意を表したい。委嘱者・共同製作者のエスプラネード（シンガポール）で今年予定されていた公演は来年に延期となった。国内での再演も計画されている。



『イブイブ・ペルー：国境の身体』



『No. 60』



『ねじロール』

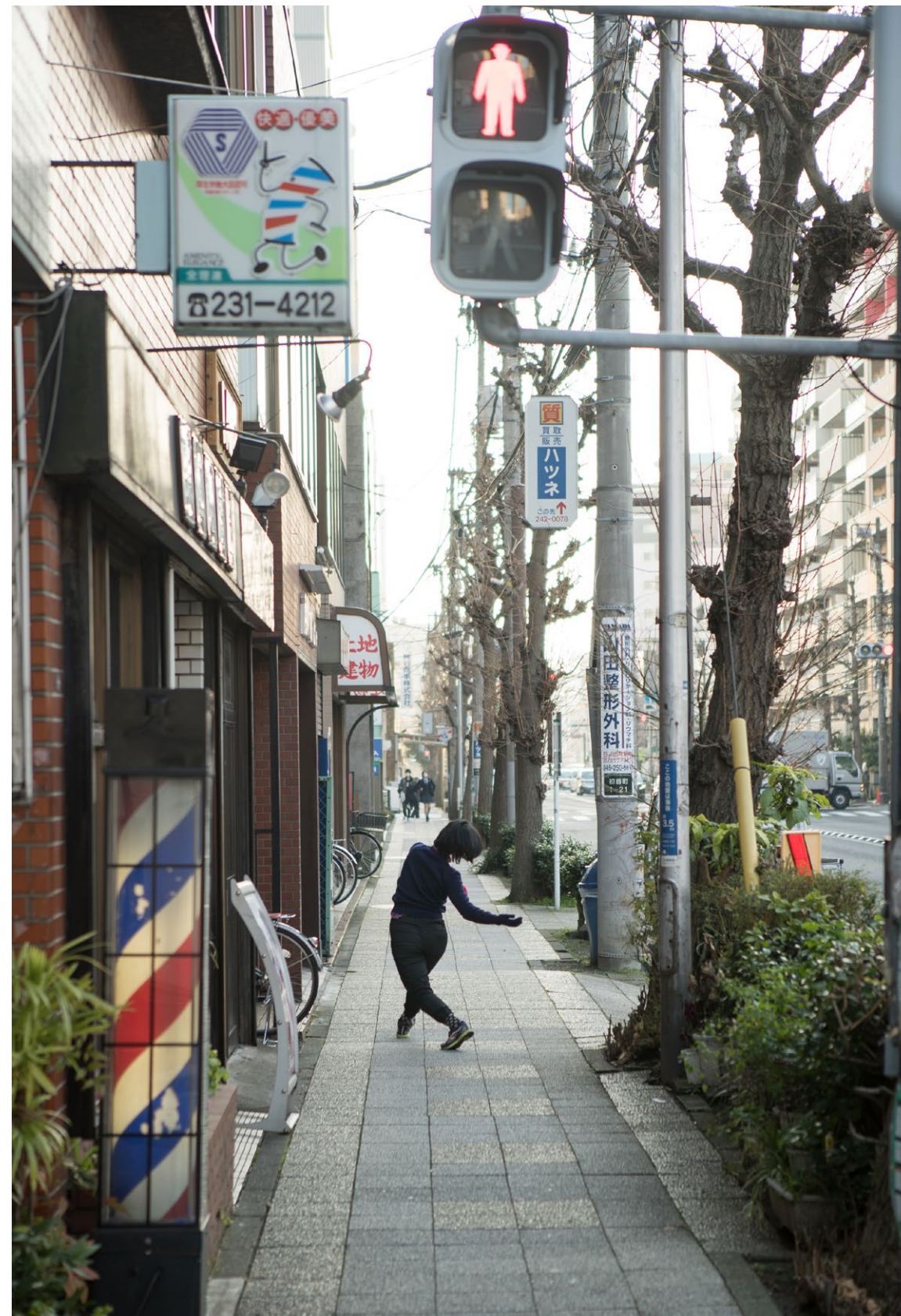


『オギヨディオラ』

振子のヴォーカルとともに自作の楽器、というよりノイズ生産装置によるカテゴライズ不能のパフォーマンスを披露した。「オギヨディオラ」は韓国語で船頭が船を漕ぐときのかけ声。1990年代に両国で活躍していた韓国のミュージシャン、リーチェの曲のタイトルでもあり、日本でリリースされた英語バージョンは日本映画『がんばっていきまっしょい』にも挿入されている。ドラッグクイーンの2人がユーモラスなバレエのレッスン、アクション・ペインティングなどのパフォーマンスを繰り広げ、日韓友好のメッセージを掲げてフィナーレを迎えた。

会場は1946年に開館し、改築なしに現在も利用されている元町の木造ダンスホール「クリフサイド」。芸術交流を通した日韓友好のイメージをポジティブに提案すると同時に、舞台芸術プロデューサーとしての思考、職業意識、社会情勢のつながりを切実に問い直すプログラムとなった。終演後、同会場でTPAM全体のクロージング・パーティーを開催。コ氏を始め今年で任期を終了したゲストディレクターの面々に感謝を伝え、今年のプログラムの締め括りとした。

2019年夏以来、半導体素材の輸出管理を引き金に日韓関係が悪化し、文化芸術の分野ではあいちトリエンナーレでの「平和の少女像」展示に対する脅迫行為や政治家の介入がそれに追い打ちをかけた。時間をかけたいという本人の希望により隔年で実施していたコ・ジュヨン・ディレクションの最終プログラムは、この状況に対する私的／職業的応答となった。歴史認識の問題にテーマティックに取り組む道を敢えてとらず、自身の芸術観に大きな影響を与えた日本人アーティスト2名（振子びじん、梅田哲也）のコラボレーション『ねじロール』、セクシュアル・マイノリティの運動を媒介とした日韓交流を実践しているアーティスト（アキラ・ザ・ハスラー、モア毛魚）のコラボレーション『オギヨディオラ』のダブルビルをこの日のために一からプロデュース。タイトルも内容も明らかになったのは上演当日であった。振子は「見るに耐えないダンス」でも「目が離せないダンス」でもない、「見ても見なくてもいいダンス」の「振付」を梅田に依頼。梅田は会場の形状に触発されて螺旋状のルートで観客を会場に招き入れ、「誰かいますか」と連呼する絞り出すような



『セクション 19 - 地域でのダンス儀式』

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2011	TPAMディレクション	悪魔のしるし	搬入プロジェクト	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	ディレクション：中村茜（株式会社ブリコグ 代表取締役／NPO法人ドリフターズ・インターナショナル 理事）	
		鉄割アルバトロケット	クラックアイアン			
		contact Gonzo	-			
		ボヴェ太郎	Lingering Imagery of Reflection 一能《井筒》ー	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	ディレクション：小倉由佳子（アイホール [伊丹市立演劇ホール] ディレクター）	
		山下残	大行進	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		
		contact Gonzo/the downhill	the vanishing paragraph and the clouds of hell	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
		青年団＋大阪大学・ロボット演劇プロジェクト（平田オリザ・石黒浩研究室・(株)イーガー 共同製作）	ロボット演劇『働く私』 アンドロイド演劇『さようなら』	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：野村政之（こまばアゴラ劇場制作）	
	TPAMディレクションPLUS	チェルフィッチュ	ゾウガメのソニックライフ	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：KAAT神奈川芸術劇場 （指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）	助成：財団法人地域創造 平成22年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業 神奈川県地域劇場・音楽堂芸術交流プロジェクト
		Noism1	Nameless Hands～人形の家	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：財団法人新潟市芸術文化振興財団、TPAM	共催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
		高嶺格	タイ・日本共同制作作品『Melody♡Cup』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：Melody Cup公演事務局、TPAM	共催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団） 助成：公益財団法人セゾン文化財団＋EU・ジャパンフェスト日本委員会（共同支援事業）
		ハイネ・アヴダル＆篠崎由紀子（deepblue） （ノルウェー／ベルギー／日本）	Field Works – office	横浜市内のオフィス	主催：NPO法人Offsite Dance Project、TPAM	助成：公益財団法人セゾン文化財団、横浜における創造的活動助成、ノルウェー政府、ベルギー・フランドース政府
	ミイティング in 横浜	ピチュ・克蘭チェン（タイ）、山下残	About Kohn	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	主催：PARC – 国際舞台芸術センター、IETM本部	共催：国際交流基金、KAAT神奈川芸術劇場（指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）、ヨコハマ創造都市センター（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団） 助成：Esplanade（シンガポール）、The Goethe-Institute Thailand（タイ） 平成22年度文化庁芸術団体人材育成支援事業
	関連企画	宮本亜門演出	金閣寺	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：KAAT神奈川芸術劇場 （指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）	助成：財団法人地域創造 平成22年度文化庁芸術拠点形成事業
		横浜ダンスコレクション過去出場者、 2011年本選出場者、振付家40名	横浜ダンスコレクションEX 2011 コンテン ポリーダンス・ショーケース	横浜赤レンガ倉庫1号館	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館 （公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	助成：芸術文化振興基金
		サーゲト・テュルキョズ、シュヴトケ・ア クンジュ（以上トルコ）、国広和毅、河崎 純、美加理	日本・トルコ共同制作現代音楽公演 『Sound Migration』	スパイラルホール、神奈川県民ホール 小ホール	主催：TPAM	
		岡崎藝術座	街などない	横浜にぎわい座 のげシャーレ	主催：岡崎藝術座	共催：坂あがりスカラシップ（急な坂スタジオ、のげシャーレ、STスポット横浜） 助成：平成22年横浜における創造的活動助成（先駆的芸術文化活動部門）
		きたまり、篠田千明、振子びじん、梅田哲 也、岡田利規、小原光洋、大東翼、川崎 歩、危口統之、クリウィムバアニー、黒 沢美香、core of bells、小暮香帆、小林耕 平、コレクティヴ・フェデラツィア（スロ ベニア）、砂連尾理、白神ももこ、手塚夏 子、ハイネ・アヴダル＆篠崎由紀子（ノル ウェー／ベルギー／日本）、橋本聡、前野 隆司、室伏鴻、望月茂徳、山賀ざくろ、山 下残、山田うん、山田せつ子、ドゥイ、快 快、ほうほう堂、京極朋彦、他	第3回ダンス・コミュニティ・フォーラム 「We dance 2011」	ヨコハマ創造都市センター、馬車道大津 ギャラリー、他	主催：NPO法人Offsite Dance Project、TPAM	助成：公益財団法人セゾン文化財団、横浜における創造的活動助成

* 情報・表記は基本的に当時のものを踏襲。アーティストやゲストディレクターの拠点国は特記なき場合は日本。TPAM ディレクション主催者としての国際舞台芸術ミーティング実行委員会・事務局は省略、その他の場合は「TPAM」「TPAM 事務局」と略記。共同製作についてはTPAM が参画したもののみ、助成については原則的にTPAM での公演に対するもののみ記入。

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など	
2011	関連企画	鬼太鼓座、梅津和時トリオ、ワークショップ参加者、他	ミュージック＆リズムス・音の旅団 総決起集会	神奈川県民ホール 小ホール	主催：TPAM、株式会社ステーション		
		井上大輔、関かおり、まくらとジョーロ	STスポット ラボセクション 2011	STスポット	主催：STスポット横浜	共催：横浜市 助成：アサヒビール芸術文化財団	
		リアリティ・リサーチ・センター（フィンランド）、石黒曜子、神村恵、岸井大輔、手塚夏子、棚秋太洋	フィンランド - 日本国際共同プロジェクト『The Sacred City - 聖なる街』	象の鼻テラス	主催：リアリティ・リサーチ・センター	共催：TPAM	
		She She Pop、リミニ・プロトコル、アンドカンパニー & Co.（以上ドイツ）	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2011／IETMサテライト・ミーティング in 横浜連携企画「世界の小劇場 vol.1 ドイツ編」	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ、中スタジオ	主催：NPO法人Drifters International、TPAM	共催：東京ドイツ文化センター 助成：文化庁、横浜市先駆的芸術活動助成	
	インターナショナル・ショーケース	スサンナ・レイノネン・カンパニー（フィンランド）	アンド・ザ・ライン・ビギンズ・トゥー・ブラー	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：フィンランド・ダンス情報センター、スサンナ・レイノネン・カンパニー（フィンランド）、TPAM	助成：フィンランド教育省、ナショナル・カウンシル・フォー・ダンス（フィンランド・アーツ・カウンシル）	
		ラバーバンドス・グループ（ケベック／カナダ）	ローン・シャーキング		主催：CINARS（ケベック／カナダ）、TPAM		
		カンパニー・グエナエル・モラン（フランス）	ラシーヌの『ベレニス』による『ベレニス』	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：東京・横浜日仏学院、TPAM	助成：リヨンを（フランス）	
		ペリーヌ・ヴァッリ（フランス／スイス）	夫婦 Myouto	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		助成：イル・ド・フランス地方文化事業局、ジュネーヴ州、ジュネーヴ市文化局、スイスロマンド宝くじ協会、Pro Helvetia、SSA、Reso-re'seau、アンスティチュ・フランセ、エルンスト・グーナー財団（以上フランス／スイス）	
		コンセントラート：ラファウ・ジェミドク & エヴァ・ガルニエツ（ポーランド）	Floe		主催：アダム・ミツキエヴィチ・インスティトゥート、Koncentrat Artistic Group、Staromiejski Cultural Centre（以上ポーランド）、TPAM		
		Subject to_change（英国）	home sweet home	BankART Studio NYK 2F	主催：ブリティッシュ・カウンシル（英国）、急な坂スタジオ、TPAM	共催：アーツコミッション・ヨコハマ	
		ジョン・グムヒョン（韓国）	オイル・プレッシャー・バイブレーター	ヨコハマ創造都市センター 1F	主催：コリア・アーツ・マネージメント・サービス（韓国）、TPAM	助成：Literature Translation Institute of Korea（韓国）	
	2012	TPAMディレクション	西島清順（プラントハンター／株式会社花宇）、佐々木文美		KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	ディレクション：中村茜（株式会社ブリコグ 代表取締役／NPO法人ドリフターズ・インターナショナル 理事）	
			康本雅子、オオルタイチ				
サンガツ × ライゾマティクス			KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ				
坂口恭平			KAAT神奈川芸術劇場 西側入口前	共同ディレクション：TPAM事務局			
山田うん			DICTEE（ディクテ）	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：小倉由佳子（アイホール [伊丹市立演劇ホール] ディレクター）		
相模友士郎			天使論	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ			
上村なおか			フルオト	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ			
マームとジブシー			塩ふる世界。	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	ディレクション：太平勝弘（STスポット 館長）		
山下残			横浜滞在	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール			
鈴木優人 × 神村恵			バッハの平均律	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール			
連沼執太 × 山田亮太（TOLTA）			タイム	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：野村政之（こまばアゴラ劇場制作）		
Chim ↑ Pom			BankART Mini	ディレクション：TPAM事務局			
TPAMディレクションPLUS		三浦基／地点 × KAAT	トカトントンと	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：KAAT神奈川芸術劇場 （指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）		
		梅田哲也	ライブ2012「ゴミと箱と音楽」	横浜美術館 レクチャーホール	主催：日本パフォーマンス／アート研究所、TPAM	共催：横浜美術館	

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2012	TPAMディレクションPLUS	長内裕美、古家優里、バク・ウンヨン（韓国）	横浜ダンスコレクション 受賞者公演	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館 （公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：フランス大使館、TPAM
		川口隆夫、白神ももこ、東野祥子、クリウィムバアニー、未来.CO（磯島未来）、トチアキタイヨウ、メガネ、GINGA（レーベル）ほか	24L/P - MID RAW -	象の鼻テラス	主催：ルフトツーク、TPAM	
		木ノ下歌舞伎	舞踊公演『三番叟／娘道成寺』	横浜にぎわい座 のげシャーレ	主催：木ノ下歌舞伎	共催：坂上がりスカラシップ
	舞台芸術AIRミーティング	黒田育世、東野祥子、隅地茉歩、白井剛、鈴木ユキオ	トヨタコレオグラフィーアワード ショーイング	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	主催：TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 実行委員会、トヨタ自動車株式会社、PARC - 国際舞台芸術交流センター	共催：TPAM
		エルヴィ・シレン（フィンランド）	日本 - フィンランド・コンテンポラリーダンス・レジデンス・エクスチェンジ共同製作プログラム：エルヴィ・シレン『Kite』	BankART Studio NYK NYK ホール	主催：NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、ZODIAK	共催：TPAM
		ジェイコブ・レン（カナダ） × 工藤冬里	パフォーマンス♪	試聴室その2	主催：高知県立美術館、PARC - 国際舞台芸術交流センター	共催：TPAM
	インターナショナル・ショーケース	チェ・ジナ／劇団ノルタン（韓国）	1洞28番地、チャスクの家	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：PAMS - ソウル舞台芸術見本市（韓国）、TPAM	制作：南山アーツセンター、劇団ノルタン（以上韓国）
		ホセ・ナヴァス／カンパニー・フラック（ケベック／カナダ）	ペルソナ	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：CINARS（ケベック／カナダ）、TPAM	
		フィリップ・ケーヌ／ヴィヴァリウム・ステュディオ（フランス）	セルジュの特殊効果	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：東京・横浜日仏学院、TPAM	助成：アンスティチュ・フランセ（フランス）
		クドゥス・オニケク（フランス）	STILL/life	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
2013	TPAMディレクション	ナデガタインスタント パーティー（中崎透 + 山城大督 + 野田智子）	エキストラ・カーテンコール	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：小倉由佳子（アイホール [伊丹市立演劇ホール] ディレクター）	
		きたまり／KIKIKIKIKIKI	戯舞	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ、小スタジオ		
		劇団子供鉅人	Where is crocodile?			
		大橋可也	WAGASHI — my master, my words, my death, my will	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：大平勝弘（STスポット 館長）	
		村川拓也	ツァイトゲーバー			
		篠田千明	ぼ ま や っ ぬ と す け る	KAAT神奈川芸術劇場		
		杉原邦生	½PAナイッ!?	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：宮永琢生（制作者／プロデューサー）	
	TPAMディレクションPLUS	セブン・フィンガーズ（ケベック／カナダ）	ロフト	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：神奈川県、KAAT神奈川芸術劇場（指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）	共催：tvk、TBS
		イラ・ブランド、FrenchMottershead、マシュー・モリス（以上英国）、危口統之	Rules and Regs with ST Spot	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	主催：STスポット、高知県立美術館	共催：横浜市、TPAM 助成：グレートブリテン・ササカワ財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、アーツ・カウンシル・イングランド（英国） 平成24年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業
		EPPA — the encounter with provocative performing arts presented by LUFTZUG（クリウィムバアニー、contact Gonzo、天野タケル、池永正二）	PANCAKE	象の鼻テラス	主催：ルフトツーク	
		マームとジブシー	あ、ストレンジャー	横浜にぎわい座 のげシャーレ	主催：マームとジブシー	共催：横浜にぎわい座
		岡田利規 × ビッグアイロン・シアターカンパニー（米国）	ゼロコストハウス	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：株式会社ブリコグ	共催：TPAM

* 舞台芸術 AIR ミーティング全体は PARC - 国際舞台芸術交流センター主催、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・京都芸術センター共催、平成 23 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業。

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2013	TPAMディレクションPLUS	KENTARO!!	横浜ダンスコレクションEX 受賞者公演	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	共催：在日フランス大使館、TPAM
		きたまり、白井剛、ほうほう堂、向雲太郎、神村恵、鈴木ユキオ、田中恵美理、白井剛、東野祥子、FUKAIPRODUCE羽衣	DANCE TRUCK PROJECT vol.2	開港広場、象の鼻パーク、KAAT神奈川芸術劇場前	主催：NPO法人Offsite Dance Project、全日本ダンストラック協会、TPAM	助成：マザーポートエリア創造活動支援事業
		富士山アネット	シャウレイの十字架	横浜にぎわい座のげシャーレ	主催：富士山アネット	共催：アトリエ劇研、横浜にぎわい座
		アンティエ・グライエ＝リパッティ（ドイツ）	Gedichterbe サウンド・ポエトリー：ドイツ 詩と歌の遺産	BankART Studio NYK NYKホール	主催：東京ドイツ文化センター	
		古家優里、関かおり、北尾亘、岡本優 トーク：久野敦子、中富勝裕、高樹光一郎	トヨタ コレオグラフィーアワード トーク & ショーイング	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD実行委員会、トヨタ自動車株式会社	共催：TPAM
		鈴木優理子、ファン・スヒョン（韓国）	日本－韓国ダンス交流プロジェクト 横浜ダンスコレクション × ソウルダンス コレクション Dance Connection	象の鼻テラス	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	共催：Seoul Performing Arts Festival（韓国）、八戸市、TPAM
	インターナショナル・ショーケース	アイディン・テキヤル（トルコ） × 河崎純	db-ll-bass ― 音、身体、楽器	ヨコハマ創造都市センター 3F	主催：Kiki Arts Project、TPAM	助成：公益財団法人セゾン文化財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
		青年団国際演劇交流プロジェクト2012 フィリップ・ケヌ企画／ヴィヴァリウム・ステュディオ（フランス）	Anamorphosis アナモルフォーシス	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	主催：（有）アゴラ企画、こまばアゴラ劇場、ヴィヴァリウム・ステュディオ（フランス）、TPAM	助成：アンスティチュ・フランセ日本－外務・ヨーロッパ問題省レジデンスプログラムThéâtre Export（フランス）
		アンディ・フィールド、アント・ハンプトン、ブライアン・ローベル、ティム・エツチェルス、ベルリン・ネバダ、ホリー・ランブル、plan b、エラ・グッド＆ニックー・ケント、リチャード・デドメニシ、デビー・ピアソン、ターニャ・エルホーリー（以上英国）、佐々瞬、渡辺美帆子	フォレスト・フリンジ at TPAM “Playing with Cities”	BankART Studio NYK 3F	主催：ブリティッシュ・カウンシル（英国）、急な坂スタジオ、ヨコハマ創造都市センター（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）、TPAM	
		エヴァン・ウェバー＆フランク・コックス＝オコネル（カナダ）	リトル・イリアッド	ヨコハマ創造都市センター 3F	主催：EW&FCO（カナダ）、Antonym Productions（カナダ）、TPAM	助成：Canada Council for the Arts、Ontario Arts Council（カナダ）
		モー・ル・ブラデック（フランス）	Professor	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：アンスティチュ・フランセ横浜、TPAM	助成：アンスティチュ・フランセ（フランス）
		ダニエル・コック（シンガポール）	Q&A	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：タン・フクエン（シンガポール）、TPAM	助成：ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）
		蓮沼執太	作曲：ニューフィル	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：野村政之（こまばアゴラ劇場 制作）	
		範宙遊泳	幼女X	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		
2014	TPAMディレクション	筒井潤＋新長田で踊る人々	新長田のダンス事情	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：横堀ふみ（NPO法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター）	
		ショーネッド・ヒューズ（英国）	Aomori, Aomori			共催：なつかしい未来創造レジデンス事業2013（なつかしい未来創造株式会社）、ARTizan、からだ・つくる・あそぶプロジェクト 助成：Wales Arts International、Arts Council of Wales、Welsh Government、British Council（以上英国） 平成25年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業
		伊藤キム × 山下残	（タイトルなし）	STスポット	ディレクション：大平勝弘（STスポット 館長）	
		酒井幸菜 × 白神ももこ	Stick & uS!! ～私たちと棒～	STスポット		
		濱田英明 × 瀧澤日以 × 柴幸男	「演劇」という名の展示	ヨコハマ創造都市センター 1F	ディレクション：宮永琢生（制作者／プロデューサー）	

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2014	TPAM ショーケース	振子びじん	横浜ダンスコレクションEX 2014 受賞者公演	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：在日フランス大使館 助成：芸術文化振興基金
		シマダタダシ、キム・クァンミン（韓国）、鈴木優理子、ファン・スヒョン（韓国）	日本－韓国ダンス交流プロジェクト Yokohama Dance Collection × Seoul Dance Collection Dance Connection	象の鼻テラス	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：Seoul Performing Arts Festiva（韓国）、八戸市 助成：公益財団法人日韓文化交流基金 平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業
	インターナショナル・ショーケース	話し言葉の百科全書／ジョリス・ラコスト（フランス／日本）	コラルル（日本バージョン）	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム、ホール ビュッフェ	主催：アンスティチュ・フランセ横浜、TPAM	助成：アンスティチュ・フランセパリ本部／フランス外務省プログラム Théâtre Export（フランス）
		シャオ・クウ × チョウ・ツウ・ハン（中国）	We apologize to inform you	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオロビー、アトリウム、BankART Studio NYK 2F	主催：TPAM	
		サイレン・チョン・ウニョン（韓国）	(Off) Stage / Masterclass	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：PARC－国際舞台芸術交流センター	共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会 助成：Literature Translation Institute of Korea（韓国）
2015	TPAM ディレクション	SCOT	トロイアの女	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：野村政之（演劇制作者）	
		ハイバイ	ヒッキー・カンクントルネード	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
		範宙遊泳 × Democrazy Theatre（タイ）	幼女X（日本 - タイ共同制作版）	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		
		ピチェ・クランチェン（タイ）	Black & White	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：横堀ふみ（NPO法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター）	
		黒沢美香 & 神戸ダンサース	jazzzzzzzzzzzz-dance	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
		BricolaQ	演劇クエスト・横浜トワイライト編	横浜市内各所	ディレクション：宮永琢生（制作者／プロデューサー）	
		エコ・スプリヤント（インドネシア）	Cry Jailolo	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：タン・フクエン（ドラマトゥルク／キュレーター／プロデューサー、シンガポール）	
		ムラティ・スルヨダルモ（インドネシア）	I LOVE YOU	BankART Studio NYK NYKホール		
			BORROW + EXERGIE – butter dance	BankART Studio NYK NYKホール		
		アイサ・ホクソン（フィリピン）	Death of the Pole Dancer	KAAT神奈川芸術劇場 小スタジオ		助成：Nadine（ベルギー）
			Macho Dancer	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		
			Work in Progress “Host”	ヨコハマ創造都市センター 3F		
	TPAM コプロダクション	インタビュー：ジェコ・シオンボ、フィトリ・スティヤニンシ、ルリー・シャバラ、ナオミ・スリカンディ（以上インドネシア）、マーク・テ、ナディーラ・ラジドゥ（以上マレーシア）、エリソン・タン・ユーヤン、ルー・ズハン（以上シンガポール） インタビューア：塚原悠也、羽鳥嘉郎	アジアン・アーティスト・インタビュー	ヨコハマ創造都市センター 1F	主催：TPAM	
		ジェローム・ベル（フランス） × ピチェ・クランチェン（タイ）	ピチェ・クランチェンと私	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	主催：アンスティチュ・フランセ日本、TPAM	助成：イルドフランス地域文化振興局、アンスティチュ・フランセ（以上フランス）
		相模友士郎	天使論	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：国際交流基金アジアセンター、KYOTO EXPERIMENT	共催：TPAM
		シャオ・クウ × ツウ・ハン（中国）	Miniascape	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：PARC－国際舞台芸術交流センター、TPAM	平成26年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2015	TPAM ショーケース	鈴木優理子、キム・ボラ（韓国）、中村蓉	横浜ダンスコレクションEX 受賞者公演	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
		井上大輔、イ・サンフン（韓国）	日本－韓国ダンス交流プロジェクト Dance Connection	象の鼻テラス	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：Seoul Performing Arts Festival（韓国）、八戸市 助成：公益財団法人日韓文化交流基金 平成26年度文化庁国際芸術交流支援事業
		岡登志子・垣尾優、大野慶人、川口隆夫、プロジェクト大山	ダンスアーカイヴプロジェクト 2015	BankART Studio NYK 3F Gallery	主催：大野一雄舞踏研究所	助成：芸術文化振興基金
2016	TPAM ディレクション	ホー・ルイアン（シンガポール）	Solar: A Meltdown	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：タン・フクエン（ドラマトゥルク／キュレーター／プロデューサー、シンガポール）	助成：ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）
		ダニエル・コック／ディスコダニー（シンガポール）＆ルーク・ジョージ（オーストラリア）	Bunny	BankART Studio NYK 3F 3C gallery		
		タラ・トランジトリー aka ワン・マン・ネイション（インターナショナル）	//gender[o]noise\\	Amazon Club		
		チョイ・カファイ（シンガポール）	SoftMachine: Expedition	BankART Studio NYK 3F 3A gallery		
		ジ・オブザバトリー（シンガポール）	Continuum	神奈川県民ホール 小ホール	ディレクション：タン・フクエン（ドラマトゥルク／キュレーター／プロデューサー、シンガポール）、恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国）	
		鈴木昭男、堀尾寛太、ビン・イドリス（インドネシア）	Music Opening Night	BankART Studio NYK 3F 3B & 3C gallery	ディレクション：恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国）	
		ユン・ハンソル × グリーンピグ（韓国）	語りの方式、歌いの方式 ― デモバージョン	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国）	
		ドキュントメント	となり街の知らない踊り子	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	ディレクション：加藤弓奈（急な坂スタジオディレクター）	
		チェルフィッチュ	あなたが彼女にしてあげられることは何もない	ポートテラスカフェ（JICA横浜 3 F）		
		ナフテージ・ジョハール（インド）、鈴木ユキオ、チェイ・チャンケトヤ（カンボジア）、白井剛、ヴェヌーリ・ペレラ（スリランカ）、手塚夏子、花柳大日翠、伊藤千枝	ダンスアーカイブボックス@TPAM2016	横浜赤レンガ倉庫1号館 2Fスペース	ディレクション：中島那奈子（ダンス・ドラマトゥルク／ダンス研究）	共催：横浜ダンスコレクション2016
		羽鳥嘉郎、オン・ケンセン（シンガポール）、久野敦子、伊藤千枝、手塚夏子、マーギー・メドリン（オーストラリア）、ヴェヌーリ・ペレラ（スリランカ）、スザンヌ・フェルマー（ドイツ）、ナフテージ・ジョハール（インド）、中島那奈子、針貝真理子	ダンスのアーカイブと老いを巡るシンポジウム	BankART Studio NYK 2F		
	TPAM コプロダクション	ピチェ・克蘭チェン（タイ）	Dancing with Death	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：TPAM	委嘱：エスプラネード ― シアターズ・オン・ザ・ベイ（dan:s series 2016、シンガポール） 共同製作：TPAM、アーツ・センター・メルボルン（オーストラリア）
		マーク・テ（マレーシア）	Baling	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		委嘱：アジアン・アーツ・シアター（韓国） 共同製作：アジアン・アーツ・シアター（韓国）、TPAM、KYOTO EXPERIMENT 助成：ロイヤル・アーツ・ガラ（マレーシア）、サイム・ダービー財団（マレーシア）

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2016	TPAMコブロン ダクシオン	インタビュー：JKアニコチェ、ドナ・ミランダ（フィリピン）、クウワイ・サムナン、チェイ・チャンケトヤ（ベトナム） インタビューア：筒井潤、羽鳥嘉郎	アジアン・アーティスト・インタビュー	YCC ヨコハマ創造都市センター 1F	主催：TPAM	
	TPAMコンテンポラリー・クラシックス	キム・ミンギ×キム・ミンジョン×ムーブメント・ダンダン（韓国）	2016 工場のともしびー劇場デモ	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国） 主催：文化庁、PARC – 国際舞台芸術交流センター	
		SPAC – 静岡県舞台芸術センター	メフィストと呼ばれた男	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	主催：TPAM	
	提携事業	YCAM InterLab + 安藤洋子	障害 × パフォーミングアーツ特集 2016	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	主催：国際交流基金、公益財団法人山口市文化振興財団	
		康本雅子／スズキユウリ		KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	主催：国際交流基金	共同主催：KAAT神奈川芸術劇場
		SLOW LABEL		象の鼻テラス	主催：特定非営利活動法人スローレーベル、象の鼻テラス	共催：国際交流基金
		大野慶人、向雲太郎、木野彩子	ダンスアーカイヴプロジェクト 2016	BankART Studio NYK 3F 3B & 3C gallery	主催：大野一雄舞踏研究所	
		dj sniff、フィオナ・リー（以上香港）、ユエン・チーワイ、ナタリー・アレクサンドラ・ツェー（以上シンガポール）、クリスナ・ウィディアタマ（インドネシア）、スキップ・スキップ・バンバン（台湾）、ソンX（ベトナム）、ピートTR（タイ）、ヨン・ヤンセン（マレーシア）、オッキョン・リー（米国）、大友良英、川口貴大、石原雄治、大城真、七尾旅人	アジアン・ミーティング・フェスティバル 2016	SuperDeluxe	主催：国際交流基金アジアセンター	
		T.H.E. ダンスカンパニー（シンガポール）	横浜ダンスコレクション 2016 アジアセレクション [シンガポール] 『オーガナイズド・カオス』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	共催：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本 助成：日韓文化交流基金 平成27年度文化庁国際芸術交流支援事業
		タシロリエ、キム・ジウク（韓国）	横浜ダンスコレクション 2016 アジアセレクション [韓国] 日韓ダンス交流プロジェクト Dance Connection 『グロウリング』	象の鼻テラス		
		DAZZLE、イマ・イドゥオセー（フィンランド）	横浜ダンスコレクション 2016 スペシャルプログラム「日本・フィンランドダブル・ビル」『キメラ』『ディス・イズ・ザ・タイトル』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール		
2017	TPAMディレクション	ビチュ・克蘭チェン、ブラディット・ブラサートーン、ヘンリーアンドパートナーズ×テンタクルズ、サン・ピッタヤー・ペーフアン、リーアム・モーガン、ピシタクン・クアンタレーング、シェーン・ブナグ、タイキ・サクピシット、ワンタニー・シリパッタナーナンタクーン、ピヤラット・ピヤボンウィワット、ワラーラック・ヒランセータワット・エブリー&デヴィッド・リーヴ（以上タイ）、篠田千明、Soi48（宇都木景一&高木紳介）	サムート・タイ：未完の歴史たち	BankART Studio NYK 3F 3B & 3C Galleries	ディレクション：タン・フクエン（ドラマトゥルク／キュレーター／プロデューサー、シンガポール）	
		ゴック・ダイ（ベトナム）、センヤワ（インドネシア）	（コンサート、タイトルなし）	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国）	
		ジェン・シュー（米国）	独儀：七つの息	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2017	TPAMディレクション	2人	TOWER (theater)	BankART Studio NYK 3F 3B Gallery	ディレクション：加藤弓奈（急な坂スタジオ ディレクター）	
		酒井幸菜 × 藤田貴大 × 吉田聡子	Layer/Angle/Composition	BankART Studio NYK 3F 3C Gallery		
		山下残	悪霊への道	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：横堀ふみ（NPO法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター）	
		余越保子（米国／日本）	ZERO ONE	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		助成：公益財団法人セゾン文化財団
		アビチャップン・ウィーラセタクン（タイ）	フィーバー・ルーム	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：TPAM事務局	
		パブリック・レコーディングス（カナダ）	パフォーマンスの百科事典	BankART Studio NYK 1F Kawamata Hall		助成：Toronto Arts Council、Metcalf Foundation、Ontario Arts Council、Canada Council for the Arts（以上カナダ）
		マリカ・タネジャ（インド）	Be Careful	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
		平田オリザ+盗火劇団（台湾）	台北ノート	横浜美術館 グランドギャラリー		共催：横浜美術館 助成：台湾文化部
		エコ・スプリヤント（インドネシア）	BALABALA	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		共同製作：Kommunitas Salihara（インドネシア）、AsiaTOPA – Arts Centre Melbourne、Sydney Festival（以上オーストラリア）、deSingel Internationale Kunstcampus（ベルギー）、TPAM、Mousonturm、Fabrik Potsdam（ドイツ）、国立舞台芸術センター（台湾） 助成：Bupati and Pemerintah Daerah Kabupaten Halmahera Barat – Maluku Utara、Dinas Pariwisata Halmahera Barat – Maluku Utara（以上インドネシア）
		インタビュー：グエン・ズイ・タイン、ヴ・ドゥック・トアン、ダラ・フォット & ボントゥーン・フォン（ベトナム） インタビュー：羽鳥嘉郎	アジアン・アーティスト・インタビュー	BankART Studio NYK 2F 2A Gallery		
2018	提携事業	多田淳之介	横浜ダンスコレクション 2017『Choreograph』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、横浜にぎわい座（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団） 平成28年度文化庁国際芸術交流支援事業
		アイサ・ホクソン（フィリピン）	横浜ダンスコレクション 2017『HOST』	横浜にぎわい座 のげシャーレ		
		古家優里、キム・ボラム（韓国）	ダンスアーカイヴプロジェクト2017	横浜赤レンガ倉庫1号館 2Fスペース	主催：大野一雄舞踏研究所	共催：ダンスアーカイヴ構想 助成：芸術文化振興基金
2018	TPAMディレクション	シャンカル・ヴェンカテシュワラン（インド）、マーティン・デネワル（ドイツ）	プログラミングのポリティクス：プラットフォーム パネル1－モビリティ、流通、酸素	BankART Studio NYK 2B Gallery	ディレクション：ジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）	
		ワイラ・アマタタンマチャド（タイ）、ナディーラ・ラジドゥ（マレーシア）	プログラミングのポリティクス：プレッシャー パネル2－マレーシアとタイにおけるプレッシャーと矛盾			
		シモーナ・レヴィ（スペイン）、ウン・セクサン（マレーシア）	プログラミングのポリティクス：パティシペーション パネル3－パーソナルからポリティカルへ：大衆の力			
		ホー・ツーニエン（シンガポール）	一頭あるいは数頭のトラ	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：マックス＝フィリップ・アッシュエンブレナー（舞台芸術プレゼンター、ドイツ）	助成：ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）
		ライトニング・スタディーズ：圧迫・抗争・汚染翻訳センター（フィリピン）	バサ・バサ			
		ジェシカ・ザフラ＋ラヤ・マーティン（フィリピン）	1417年から陽気さを輸出し続けて：世界征服のための一理論	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ、Bayani's Kitchen		

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2018	TPAMディレクション	恩田晃（米国）＋高橋悠治	ホセ・マセダについて	BankART Studio NYK 2B Gallery	ディレクション：恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国）	助成：アジアン・カルチュラル・カウンシル
		ク・ジャヘ×シアター、ディフィニトリー（韓国）	BankART Studio NYK kawamata Hall	BankART Studio NYK kawamata Hall	ディレクション：コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国）	助成：Center Stage Korea
		サイレン・チョン・ウニョン（韓国）	変則のファンタジー_日本版	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		韓国版製作：南山芸術センター 韓国版共同製作：TPAM 助成：Center Stage Korea
		オフィスマウンテン、福留麻里、橋本清、TOKYO ELECTROCK STAIRS（KENTARO!! / AYANO YOKOYAMA / MOTO TAKAHASHI）、範宙遊泳	急な坂ショーケース	急な坂スタジオ	ディレクション：加藤弓奈（急な坂スタジオ ディレクター）	
		サムソン・ヤン（香港）	カノン	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	ディレクション：TPAM事務局	
		contact Gonzo featuring Skychurch（フィリピン）	群衆の音像（仮）	BankART Studio NYK 3B & 3C Galleries		
		梅田哲也	インターンシップ	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		
		チョイ・カファイ（シンガポール／ドイツ）	存在の耐えられない暗黒（ワーク・イン・プログレス）	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		助成：Kunststiftung NRW（ドイツ）、国際交流基金アジアセンター、公益財団法人セゾン文化財団
		テーリ・テムリッツ	ソウルネスレス	BankART Studio NYK kawamata Hall		
	提携事業	インタビュー：グエン・トゥイ・ハン、ゴ・ティン・フーン、タイ・フォン（以上ベトナム）、津野海太郎 インタビュアー：羽鳥嘉郎、佐々木治己、細谷修平	アジアン・アーティスト・インタビュー	BankART Studio NYK 2A Gallery		
		チーム んまつー波斯、かえる P、横浜国立大学モダンダンス部、株式会社崎陽軒社員	横浜ダンスコレクション 2018 『青空ダンス』	横浜赤レンガ倉庫1号館 屋外広場	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、横浜にぎわい座（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団） 平成29年度文化庁国際芸術交流支援事業
		10組のファイナリスト（フィリピン、韓国、日本、ドイツ）	横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール		
		Aokid × 橋本匠	横浜ダンスコレクション 2018 受賞者公演『we are son of sun!』	象の鼻テラス		
		ジェレミー・ベランガール、ジュスティヌ・エマール（以上フランス）、渋谷慶一郎	横浜ダンスコレクション 2018 ダンスクロス『Parade for the End of the World』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール		
		寺田みさこ	横浜ダンスコレクション 2018 『三部作』	横浜にぎわい座 のげシャーレ		
2019	TPAMディレクション	東野祥子、カジワラトシオ（ANTIBODIES Collective）	カセット100（ホセ・マセダ作曲、1971）	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	ディレクション：恩田晃（サウンドアーティスト／キュレーター、米国）	
		ジョセフィーノ・チノ・トレド（フィリピン）、高橋アキ、高橋悠治、寺嶋陸也、入川舜、佐藤祐介、田中香織、笹崎雅通、有馬純晴、村田厚生	5台のピアノのための音楽／2台のピアノと4本の管楽器（ホセ・マセダ作曲、1993／1996）	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		
		ホー・ツーニエン（シンガポール）	神秘のライ・テク	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：マックス＝フィリップ・アッシェンブレンナー（ルールトリエンナーレ ヘッド・ドラマトウルク、ドイツ）	委嘱：Singapore International Festival of Arts（シンガポール） 共同製作：International Summerfestival Kampnagel（ドイツ）、国立現代美術館（韓国）、Arts Centre Melbourne and Asia TOPA（オーストラリア）、Holland Festival（オランダ）、Kunstenfestivaldesarts（ベルギー）、TPAM、紅磚美術館（中国） 助成：ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2019	TPAMディレクション	ファーミ・ファジール（マレーシア）＋山下残	GE14	日本大通り、Kosha33 ホール	ディレクション：ジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）	エグゼクティブ・プロデューサー：ファイブ・アーツ・センター（マレーシア） 共同製作：TPAM
		タナボン・ウィルンハグン（タイ）	退避（ワーク・イン・プログレス 公開ワークショップ）	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：TPAM事務局	
		ジンイ・ワン（中国／ノルウェー）	ポスト資本主義オークション	横浜市開港記念会館、mass×mass 関内フューチャーセンター		助成：Arts Council Norway、The Audio and Visual Fund、City of Bergen、Performing Arts Hub Norway、Norwegian Ministry of Foreign Affairs（以上ノルウェー）
		エコ・スプリヤント（インドネシア）	ソルト	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		
		テーリ・テムリッツ	不産主義	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
		ファイブ・アーツ・センター（マレーシア）	仮構の歴史（仮題、ワーク・イン・プログレス）	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		エグゼクティブ・プロデューサー：ファイブ・アーツ・センター（マレーシア） 共同製作：TPAM
		イルワン・アーメット（インドネシア）	暴力の星座	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		
	提携事業	横浜国立大学モダンダンス部、んまつーボス、地域福祉型お笑いダンスユニット☆ムロタムラ、天然ダンス工房、中村蓉	横浜ダンスコレクション 2019 『青空ダンス』	横浜赤レンガ倉庫 屋外広場	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	共催：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、横浜にぎわい座（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団） 助成：Acción Cultural Española (AC/E)（スペイン） 平成30年度文化庁国際芸術交流支援事業
		10組のファイナリスト（日本、韓国、中国、台湾、フィリピン、ラトビア）	横浜ダンスコレクション 2019 コンペティションⅠ	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール		
		ナッシュ（フランス）、鈴木竜	横浜ダンスコレクション 2019 ダンスクロス 『Cellule』 『AFTER RUST』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール		
2020	TPAMディレクション	リー・レンシン（マレーシア）	セクション19 - 地域でのダンス儀式	主に黄金町周辺の任意の場所、Kosha33 ホール	ディレクション：ジューン・タン（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）	助成：Krishen Jit Astro Fund、INXO Arts Fund、CENDANA Development Fund（マレーシア）、Dance Nucleus（シンガポール）
		劇団態変	箱庭弁当	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	ディレクション：小倉由佳子（ロームシアター京都 事業担当）	
		パドミニ・チェター（インド）	哲学的実演 1&2	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：ヘリー・ミナルティ（インディペンデント研究者／キュレーター、インドネシア）	
		中間アヤカ	フリーウェイ・ダンス	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ	ディレクション：横堀ふみ（DANCE BOX プログラムディレクター）	
		モア毛魚（韓国）＆アキラ・ザ・ハスラー、振子びじん＆梅田哲也	オギヨディオラ ねじロール	クリフサイド	ディレクション：コ・ジュヨン（インディペンデント・プロデューサー、韓国）	
		fieldworks / ハイネ・アヴダル＆篠崎由紀子（ノルウェー／ベルギー／日本）	nothing's for something	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：TPAM事務局	助成：Performing Arts Hub Norway（ノルウェー） 特別協力：駐日ノルウェー大使館
			unannounced	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ、他		助成：apap – performing Europe 2020, co-funded by the Creative Europe Programme of the European Union（ヨーロッパ複数国）、Performing Arts Hub Norway（ノルウェー） 特別協力：駐日ノルウェー大使館
		fieldworks / ハイネ・アヴダル＆篠崎由紀子＋サラ・ヤンセン（ノルウェー／ベルギー／日本）	unwritten conversation	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ		共同製作：東ヌサ・トゥングラ州政府、Komunitas Salihara、Ratnasari Langit Pitu（以上インドネシア）、AsiaTOPA（オーストラリア）、SPRING Festival（オランダ）、Theater im Pumpenhaus（ドイツ）、TPAM
		エコ・スプリヤント（インドネシア）	イブイブ・ペルー：国境の身体	KAAT神奈川芸術劇場 ホール		
		タナボン・ウィルンハグン（タイ）、木村玲奈、児玉北斗、益田さち、敷地理	退避	横浜ボートシアター		
		ピチェ・克蘭チェン（タイ）	No. 60	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	ディレクション：TPAM事務局	委嘱・共同製作：Esplanade – Theatres on the Bay（シンガポール） 共同製作：台北舞台芸術センター（台湾）、TPAM

年	枠	アーティスト	演目	会場	ディレクション／主催	共催／共同製作／助成など
2020	提携事業	赤レンガ・ダンスプロジェクト、んまつー ポス、ミア＆ロサム、天然ダンス工房、か えるP	横浜ダンスコレクション 2020 『青空ダン ス』	横浜赤レンガ倉庫 屋外広場	主催：横浜赤レンガ倉庫1号館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財 団）	共催：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、横浜にぎ わい座（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）、象の鼻テラス 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（国際芸術交流支援事業）、独立行 政法人日本芸術文化振興会
		10組のファイナリスト（日本、韓国、台 湾、香港、フィリピン）	横浜ダンスコレクション 2020 コンペティ ションI	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール		
		黒須育海	横浜ダンスコレクション 2020 受賞者公演 『けむりでできたそう』	横浜にぎわい座 のげシャーレ		
		ジュゼッペ・キコ＆バルバラ・マティア ヴィッチ（クロアチア／イタリア／フラン ス）、田村興一郎	横浜ダンスコレクション 2020 ダンスクロ ス『FORECASTING』『MUTT』	横浜にぎわい座 のげシャーレ		
		イェンスン・パン（香港）、エル・ガオ （マカオ）、ゲン・ズボ、レン・ゴード ン、レイ・イエン（以上中国）	第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラット フォーム HOTPOT [China]	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	主催：横浜ダンスコレクション、City Contemporary Dance Festival、SiDance	共催：象の鼻テラス
		イ・ギョンウン、キム・ソンヨン、クオ ン・ヒョク、ユン・ブルム、キム・ホヨ ン、イム・ジョンハ（以上韓国）	第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラット フォーム HOTPOT [Korea]	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール		
		島地保武 × 環ROY	第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラット フォーム HOTPOT [Japan.1]	象の鼻テラス		
		小暮香帆、倉田翠	第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラット フォーム HOTPOT [Japan.2]	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール		
		白神ももこ、笠井瑞丈 × 鈴木ユキオ	第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラット フォーム HOTPOT [Japan.3]	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール		



フリンジナイト

TPAM会期中に横浜、東京エリアで実施される公演やイベントを公募し、TPAMに参加する舞台芸術のプロフェッショナルに紹介するプログラム。今年は新型コロナウイルスの影響で3演目が中止となったが、最終的な登録数は52（うち海外登録数8）とほぼ例年通りとなった。今年は、前回まで主に事務局が代行していた公演情報の編集やチケット管理などを、登録者側で随時柔軟に行なうことができるように登録システムを大幅に改修した。また、事務局による情報の英訳をオプション式にし、自力で翻訳すれば登録料を抑えられるようにするなどの合理化を図った（海外登録の情報は事務局が無料で和訳）。新しいシステムやTPAMインフォメーションデスクの運営に大きな混乱は見られなかったものの、システムガイドの充実や精度には更なる向上の余地があり、利用者のフィードバックを参考に、より使いやすいサービスを提供できるよう改善していきたい。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020
登録数	35	36	53	55	52	52
海外登録数	0	2	8	8	6	8
演目数	51	46	60	72	59	68
公演数	143	219	243	260	250	277
横浜会場数	17	16	20	24	25	25
東京会場数	10	14	17	15	11	14

プレイベントとして、公演準備でTPAMディレクションやエクスチェンジに参加することが難しいフリンジ参加者に呼びかけ、国内外の舞台芸術関係者とのネットワーキングを行なう機会の創出を目的として、渋谷駅前にオープンした新スペース「shibuya-san」で「TPAMフリンジナイト」を開催した。参加者の公演チラシを配架するなど一般観客への広報機会とし、また、長島確氏（フェスティバル/トーキョー ディレクター）、森隆一郎氏（渚と主催/shibuya-san アートセンター 責任者）、

丸岡ひろみ（TPAM ディレクター）によるトークを、TPAMフリンジの見どころ、歴史、これからの展望をテーマに実施した。トーク後は参加者同士でカジュアルな交流が生まれ、盛況のうちに終了した。

TPAM期間中にフリンジ公演で利用された会場数は39にのぼり、そのうち横浜は25会場と過去最大規模を記録した。加藤弓奈氏（TPAM2016～2018 TPAMディレクション ゲストディレクター）がディレクターを務める「急な坂スタジオ」では、同施設と関係の深いアーティストによる5作品（富士山アネット『Invisible Things』、岩渕貞太／岩渕貞太 身体地図『Gold Experience』ワークインプログレス公演、few phew pur『祈りの素描』、y/n『カミングアウトレッスン』、さんぴん『あなたの人生、いただきます。-DOCUMENTARY of SANPIN31-』上映会 & トーク）が上演・実施され、会場のサイズにも関わらず、一般観客を含め約700名を動員したとの報告を受けている。また、フリンジ登録者の多くが海外公演の機会開拓や新たな観客層との出会いを目的に登録する一方で、追手門学院高校表現コミュニケーションコースは、余越保子（ダンス）、前田司郎（演劇）の2名のアーティストを迎えて創作した2作品を上演し、レクチャートークとして表現教育の取り組みを紹介するなど、前例のないユニークな活用方法で、フリンジの新たな可能性を示した。

「オーガナイザー登録」枠では、CINARS（カナダ）やクリエイティブ・リンクス（マカオ）など、海外を拠点とするプラットフォーム／組織が複数の作品を紹介した。とりわけクリエイティブ・リンクスは、「メイド・イン・マカオ Vol. 3」と題し、昨年新たにオープンしたBankART Stationでポイントビューアート&ミュージックピクニック『鉄で出来た月を僕は吞んだ』、マカオ実験劇場『愛の進化』（新型コロナウイルスの影響で渡航不能となり中止）、ポイントビューアート『ガンズアンドフラワーズ』、BOK × 高凱琳 × 福島章嗣『時間と玩具』、BOK × Choi-Buttinger『Orig.ami.』の4作品を紹介。計12公演を実施する、前例のない大規模な形態で参加した。また、CINARSは、公演だけでなくTPAMエクスチェンジでレセプションや参加アーティストの紹介を行なうなど、ネットワーキング活動も含めTPAMを最大限活用した。事務局からは制作費や滞在費などのサポートは提供していないにも関わらず、フリンジへの海外からの積極的な参加、参加規模の拡大が見られるのは、TPAMで得られる出会いや交流の質が一定の評価を得ているからと考えられる。特にアジア圏では、海外ツアーなどの直接的な成果に結びつかなくとも、TPAMフリンジで作品を上演すること自体が自国でのプレゼンス向上や新しい活動展開に繋がることもあるという。

今年は「横浜ダンスコレクション2020」、および横浜ダンスコレクションが香港、韓国のダンスプラットフォームと共催した「第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム」を提携事業として紹介した。TPAMエクスチェンジでも「アジア・ネットワーク・フォー・ダンス（AND+）」によるディスカッションやワークショップが実施され、TPAMディレクションがダンスと身体表現にフォーカスしたこともあり、集客や広報において相乗効果を生み出し、高い関心を持った横断的な参加を促すことができた。横浜では国内最大級のダンスフェスティバル「DANCE DANCE DANCE @ YOKOHAMA」が3年に1度開催され、今年6月には新たなダンスの活動拠点「Dance Base Yokohama」が誕生。今後も横浜ダンスコレクションや



Photo by Johnny Tam

『時間と玩具』

横浜に根付いたダンス関係者との提携を強化し、コンテンポラリー・ダンスの国際的発信地としての横浜の認知向上につなげていきたい。

2016年のアジア・フォーカス開始以降、TPAMフリンジ（2016年までは「TPAMショーケース」）に参加したアーティスト・団体は約200組に及ぶ。レパートリー作品から実験的・野心的な新作まで300演目以上が上演され、TPAMディレクションでは紹介しきれない多種多様な作品とTPAMに参加する国内外のプロフェッショナルをつないできた。フリンジ参加を通じた「成果」は、海外公演やツアーの実現など可視性の高いものから、公演の芸術的達成度や制作面に関するプロフェッショナルからのフィードバック、TPAM期間中の交流を通した国内外のネットワーク構築など長期的に作用するものまで、多様な形をとる。TPAMフリンジは一貫して無審査・公募制であり、事務局は企画や公演内容に干渉せず、会場の紹介以外の制作的協力も財政的支援も行っていないが、かえってキャリアや芸術的傾向の異なるアーティスト／カンパニーが目的意識を持って自発的に集まり、それぞれがそれぞれの「成果」を得る場として確立された感がある。

一方で、横浜創造界隈の多くの施設が国内外の多くのアーティストに活用されてきたこと、舞台芸術の発信地としての同エリアの国際的ステータスが確立されていることについての地域社会の認知はいまだ十分とは言えない。また、この報告書を作成している現在もアーティスト、会場・施設、その他関係者が新型コロナウイルス感染症対策に追われ、活動基盤維持のため奔走しながら、ライブ・パフォーマンスの実現性と社会的地位の回復のため苦闘している。その一助となり、かつ地域社会の活性化、舞台芸術の創造、その国際的発信をつなげるプロジェクトとしての一層の展開と認知向上につながるよう、次回以降の開催形態を検討していきたい。

アーティスト／オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
東京タンバリンわのわ	花筏	BankART SILK	日本
KPR ／開幕ベナントレース	Ashita no Ma-Joe: Rocky Macbeth	若葉町ウォーフ	
黒沼千春	点 × 線	横浜市民ギャラリー 地下1階展示室	
富山のはるか	リトアニア共和国後援作品『ロミオとジュリエット』	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	日本、リトアニア
横浜ダンスコレクション 2020	青空ダンス	横浜赤レンガ倉庫 屋外広場	日本
	コンペティションI	横浜赤レンガ倉庫 1号館 3F ホール	日本、韓国、台湾、香港、フィリピン
	受賞者公演：黒須育海『けむりてできたぞう』	横浜にぎわい座 のげシャーレ	日本
	ダンスクロス：ジュゼッペ・キコ & バルバラ・マティアヴィッチ『FORECASTING』、田村興一郎『MUTT』		日本、クロアチア／イタリア／フランス
□□	四角い2つのさみしい窓	こまばアゴラ劇場	日本

アーティスト／オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
青年団	青年団国際演劇交流プロジェクト 2019『東京ノート・インターナショナルバージョン』	吉祥寺シアター	日本、台湾、タイ、フィリピン、韓国、米国、ウズベキスタン
BRDG	ふれる〜ハプロス	早稲田小劇場どらま館	日本
SCOOL セレクション 2020	福井裕孝『インテリア』	SCOOL	
	荒木優光：ラウドアーカイブス 2020 パブリックアドレス - 音場 2020、増幅する部屋 2020		
劇団現代古典主義	The 4th floor series vol.7 同時進響劇®『THE BROTHERS KARAMAZOV』	劇団現代古典主義アトリエ	
S T スポットセレクション vol.3	ヌトミック『それから街』	S T スポット	
	岡田智代 × 大谷能生『カシオペアの背中』		
FURUTAMARU.	梟の服 − 女性店員版 −	Archishop Library&Café	
Co. Ruri Mito	Co. Ruri Mito	森下スタジオ	
鮭スベアレ	鮭スベアレ本公演 物狂い音楽劇『リヤ王』	宮越記念 久良岐能舞台、鍬仙会能楽研修所	
Belloo Creative × IDIOT SAVANT × Daniel Belton	砂の家	貞昌院	日本、オーストラリア、ニュージーランド
*birdname	THE GOLDEN TEMPLE	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	エストニア、日本
ARICA	KIOSK	BankART Station	日本
伊藤キム	病める舞姫	かなつくホール	
EPOCH MAN	Maybe a Crane ~ 鶴かもしれない ~	yoshidamachi Lily	
若手振付家ショーケース	北尾亘 (Baobab)・中村蓉・田村興一郎『UMU- うむ - / 理の行方 vol.4 / FACE』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	
	井田亜彩実・岡本優 & 岡田太郎・和太鼓＋ダンスユニット＜まだこばやし＞・仁田晶凱『Species - 種 - / Lapse -Yokohama- / それぞなる / Journey to ∞』		
台北パフォーミングアーツセンター (TPAC) × orangcosong (オランコソン)	IsLand Bar (Yokohama) - Port Undersea	The CAVE	日本、台湾、韓国／台湾、香港／ドイツ
劇団かかし座	ハンド・シャドウズ・アニメーレ	横浜人形の家 あかいくつ劇場	日本
N ₂	書き言葉と話し言葉の物性を表在化する試み Tab.10 街の死：necropolises.	横浜市内某所	

アーティスト／オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
佐藤朋子	The Reversed Song, A Lecture on “Shiro-Kitsune (The White Fox)”	東京藝術大学 元町中華街校舎 3F	日本
ARTWAVE（NCAF）／梅田宏明／ムーバー（ダンサー）	Movers’ Platform #1 Taiwan and Japan	Kosha33 ホール	日本、台湾
WONG, Pik Kei	Bird-Watching	若葉町ウォーフ	香港
第3回 HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム	HOTPOT [China]	横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3F ホール	中国、香港、マカオ
	HOTPOT [Korea]		韓国
	HOTPOT [Japan.1]	象の鼻テラス	日本
	HOTPOT [Japan.2]	横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3F ホール	
	HOTPOT [Japan.3]		
Blue Ka Wing	Experimental Relationships (Hong Kong)	若葉町ウォーフ	香港
アブラクサス	タブーなき世界そのつくり方	サンモールスタジオ	日本
劇団あはひ	どさくさ	下北沢本多劇場	
KAAT 神奈川芸術劇場 共生共創課 共生共創事業	『老いと演劇』 OiBokkeShi 『ポータブルトイレットシアター』	県民共済みらいホール	
	インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 -Kyo：第7回インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 -Kyo 公演『東京の人々』『隠岐からの便り』		
ケベック フォーカス（CINARS）	アンドレア・ペナ 『Untitled I』	THE HALL YOKOHAMA	カナダ
	シモン・グルニエ - ポワリエ & ドリアン・ヌスキん - オデー 『Speed Glue』		
富士山アネット	Invisible Things	急な坂スタジオ	日本
岩渕貞太／岩渕貞太 身体地図	Gold Experience ワークインプロGRESS 公演		
few phew pur	祈りの素描		
y/n	カミングアウトレッスン		
メイド・イン・マカオ Vol. 3	ポイントビューアート&ミュージックピクニック 『鉄で出来た月を僕は呑んだ』	BankART Station	マカオ
	マカオ実験劇場 『愛の進化』		
	ポイントビューアート 『ガンズアンドフラワーズ』		
	BOK × 高凱琳 × 福島章嗣 『時間と玩具』		
	BOK × Choi-Buttinger 『Orig.ami.』		

アーティスト／オーガナイザー／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
mooncuproof	48.80	プロト・シアター	日本
ゼロコ	Silent Scenes	ムーブ町屋ムーブホール	
Annachan	桜／桜爆弾	The CAVE	米国
はらぺこ満月	はらぺこ満月 4 品目 『さんかくまる』	BUKATSUDO HALL	日本
JDS ARTWORKS ／カワサキアリス	KATARIBE ー JAPAN 語り継ぐ女性の身体	World Peace Theater	
追手門学院高校表現コミュニケーションコース	追手門学院高等学校 TPAM 公演	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	
劇団鳥獣戯画	三人でシェイクスピア	ゲーテ座	
OM-2 × 柴田恵美	傾斜 -Heaven & Hell-	日暮里サニーホール	
イエディヌ企画	イマジナリービーポー イン トーキョー	新宿眼科画廊 スペース O	
7 度	dim voices 3	七針	
櫛田祥光／ Dance company Lasta	ナラク	THE HALL YOKOHAMA	
gallop	ダブルプラス・グッドフル・アングッド	The CAVE	
M.M.S.T	[Othello] < prototype version >	横浜美術館レクチャーホール	
敷地理	振動する固まり、ゆるんだ境界	東京藝術大学 元町中華街校舎	
さんびん	『あなたの人生、いただきます。-DOCUMENTARY of SANPIN31-』 上映会&トーク	急な坂スタジオ	
烏丸ストロークロック	まほろばの景 2020	東京芸術劇場シアターイースト	

新聞	媒体名	掲載日／号	内容
1	神奈川新聞 暮らし面	2019/12/24	劇団態変「誰も見たことのない表現を」
2	東洋経済日報 文化面	2020/01/17	劇団態変の作品上演
3	しんぶん赤旗 文化面	2020/01/21	ダンスと「身体表現」で国内外のプロが交流
4	東京新聞タ刊 文化面	2020/01/22	最先端の舞台芸術を
5	中日新聞タ刊 文化面	2020/01/22	東京新聞記事転載
6	Vientiane Times (ベトナム) 8面	2020/01/29	Laos artists to hits the stage in Japan
7	朝日新聞タ刊 文化面	2020/01/30	鋭い感性 国内外の舞台の見本市
8	毎日新聞 東京面	2020/02/07	国内外の舞台人交流
9	Bangkok Post (タイ)	2020/03/03	Where does a performance begin?
10	朝日新聞タ刊 文化面	2020/03/05	乗越たかお氏によるフリンジ作品劇評
11	毎日新聞タ刊 特集面	2020/03/10	劇団態変主宰・金満里氏へのインタビュー
12	公明新聞	2020/04/15	西田留美可氏による「ケベック・フォーカス」劇評
13	公明新聞	2020/05/27	西田留美可氏による『Invisible Things』劇評
雑誌	媒体名	掲載日／号	内容
1	STUDIO VOICE	9月号	TPAMエクスチェンジ コーディネーター新田へのインタビュー
2	ぐるっと	冬号	イベント概要紹介
3	展示会ガイド	12-1月号	イベント概要紹介
4	ANGLE	1月号	劇団態変主宰・金満里氏へのインタビュー
5	地域創造レター	1月号	「TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020」開催のお知らせ
6	ダンスマガジン	2月号	横浜ダンスコレクション2020／HOTPOT紹介記事
7	横浜シーサイダー	2月号	イベント概要紹介
8	kanagawa ARTS PRESS	2-3月号	イベント概要紹介
9	ぶらあぼ	4月号	乗越たかお氏による連載コラムにてTPAMに言及
10	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭を通じた人材育成事業報告書	3月	TPAMディレクター丸岡寄稿「芸術における国際ネットワークの新たなフェーズ」
11	イマージュ	76号	基調講演採録、劇団態変主宰・金満里氏とTPAMディレクター丸岡との対談掲載
12	日本照明家協会誌	5月号	貫成人氏による『nothing's for something』『退避』『No.60』『箱庭弁当』、横浜ダンスコレクション2020劇評
13	ダンスマガジン	5月号	横浜ダンスコレクション2020／HOTPOT劇評
14	TH	82号	志賀信夫氏の連載コラムにてTPAMとフリンジ作品『金閨寺』に言及
15	悲劇喜劇	7月号	島貫泰介氏によるTPAM2020レポート
テレビ	番組名	放送日	内容
1	NHK World「Direct Talk」	2020/03/05	Dancing Through the Borders: Eko Supriyanto / Choreographer, Dancer
ラジオ	番組名	放送日	内容
1	TOKYO SOUNDS GOOD	2020/02/07	TPAM広報雨宮出演
2	BFM89.9. (マレーシア)	2020/03/03	TPAM2020 #1: A CRITICAL OVERVIEW
3	BFM89.9. (マレーシア)	2020/03/10	TPAM2020 #2: MEET THE DIRECTOR
4	BFM89.9. (マレーシア)	2020/03/17	TPAM2020 #3: STAGING SOUTHEAST ASIA

5	BFM89.9. (マレーシア)	2020/03/24	TPAM2020 #4: MALAYSIA, REPRESENT!
6	BFM89.9. (マレーシア)	2020/03/31	TPAM2020 #5: WHAT IS PERFORMANCE TODAY?
ウェブ	媒体名	掲載日／号	内容
1	Sirkuksen tiedotuskeskus (フィンランド)	2019/05/09	Hae verkostoitumismatkalke Japaniin (TPAM2020)
2	ステージナタリー	2019/08/02	「TPAM2020」開催決定、フリンジへの参加登録がスタート
3	ぴあ	2019/08/02	ステージナタリー転載
4	livedoor ニュース	2019/08/02	ステージナタリー転載
5	Yahoo! ニュース	2019/08/02	ステージナタリー転載
6	ハッカドール	2019/08/02	ステージナタリー転載
7	舞台制作PLUS	2019/08/04	TPAM2020公募プログラム「TPAMフリンジ」参加登録の受付開始
8	CAPACOA (カナダ)	2019/08/06	Now Accepting Expressions of Interest to attend TPAM for Producers, Presenters & Programmers
9	KUNSTENPUNT (ベルギー)	2019/10/26	Join our working visit to TPAM 2020 (Japan) – open call for artists and performing arts workers
10	インターネットコム	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
11	エンタメポスト	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
12	47NEWS	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
13	伊勢新聞	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
14	株式会社共同通信社	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
15	ZAKZAK	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
16	excite ニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
17	Response	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
18	J-CAST ニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
19	東京バーゲンマニア	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
20	新潟日報モア	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
21	FM FUKUOKA	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
22	週刊エコノミスト	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
23	毎日スタイル	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
24	やまがたニュースオンライン	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
25	週刊女性PRIME	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
26	岐阜新聞Web	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
27	どうしん電子版	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
28	さんにちEye	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
29	AGARA紀伊民報	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
30	RBB TODAY	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
31	Infoseek ニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
32	CNET Japan	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
33	ZDNET Japan	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
34	SHIKOKU NEWS	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
35	MIYANICHI e PRESS	2019/11/18	事務局発行リリース掲載

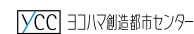
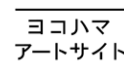
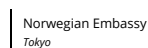
36	SankeiBiz	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
37	デーリー東北デジタル	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
38	秋田魁新報電子版	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
39	千葉日報オンライン	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
40	SANSPO.COM	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
41	ダイエツクラブ	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
42	AFPBB News	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
43	茨城新聞クロスアイ	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
44	河北新報 ONLINE NEWS	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
45	毎日新聞	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
46	朝日新聞デジタル&M	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
47	高知新聞	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
48	下野新聞SOON	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
49	Jタウンネット 東京都	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
50	ジョルダンソクラニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
51	福井新聞 ONLINE	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
52	京都新聞	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
53	沖縄タイムスプラス	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
54	MANTANWEB	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
55	みんゆうNet	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
56	上毛新聞ニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
57	SEOTOOLS ニュース	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
58	みやビズ	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
59	StartHome	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
60	共同通信デジタル	2019/11/18	事務局発行リリース掲載
61	奈良新聞デジタル	2019/11/19	事務局発行リリース掲載
62	徳島新聞	2019/11/19	事務局発行リリース掲載
63	CINRA	2019/11/19	国内外の舞台芸術が集う「TPAM2020」2月に開催 ダンスと身体表現に焦点
64	舞台制作PLUS	2019/11/26	「TPAM2020」各種プログラム発表
65	ステージナタリー	2019/11/26	劇団あはひ『どさくさ』を再演、作品のベースとなる落語「粗忽長屋」巡るイベントも
66	ナタリー	2019/11/29	事務局発行リリース掲載
67	Yahoo! ニュース	2019/11/29	事務局発行リリース掲載
68	ステージナタリー	2019/11/29	「TPAM2020」身体表現に迫る全11演目がラインナップ
69	ヨコハマアートナビ	2019/12/6	『nothing's for something』他告知
70	マグカル	2019/12/16	多方面から注目のOiBokkeShi、93歳の主演俳優が岡山から来浜！
71	spice	2019/12/26	今回はダンスと身体表現にフォーカス「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020（TPAM2020）」開催
72	ステージナタリー	2020/1/1	“分断”を前に参加者は何を選ぶのか？ 富士山アネット『Invisible Things』

73	ステージナタリー	2020/1/6	高山玲子率いるfew phew pur、新作のテーマは“折り”と“信仰”
74	artscape	2020/1/9	アートフラッシュニュース
75	ステージナタリー	2020/01/09	KPR／開幕ベナントレース『Ashita no Ma-Joe: Rocky Macbeth』が凱旋
76	ステージナタリー	2020/01/10	小沢道成と3台のラジカセが“共演”、一人芝居『鶴かもしれない』開幕
77	ステージナタリー	2020/01/12	鮭スベアレが能楽堂で『リヤ王』、テーマは「老いは誰も幸せにしないだろうか？」
78	ステージナタリー	2020/01/14	すべての“オシャレ迷宮”滞在者に贈る、劇団フルタ丸『梟の服』女性店員版
79	ステージナタリー	2020/01/16	富山のはるか、リトアニアの現代美術作家と共同制作する『ロミオとジュリエット』
80	マグカル	2020/01/16	ヌトミック『それからの街』（TPAM2020フリンジ STスポットセレクション vol.3 参加作品）
81	ArtsEquator（シンガポール）	2020/01/16	20 Arts and Cultural Festivals to Visit in Southeast Asia in 2020
82	ArtsEquator（シンガポール）	2020/01/17	ArtsEquator's Top 10 Picks of TPAM2020
83	ステージナタリー	2020/01/21	gallop、ジョージ・オーウェル『1984』がモチーフの新作パフォーマンス
84	フレッシュアイ	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
85	@DIME（アットダイム）	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
86	産経ニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
87	BIGLOBE ニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
88	財経新聞	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
89	ORICON NEWS	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
90	@niftyビジネス	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
91	時事ドットコム	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
92	iza（イザ！）	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
93	現代ビジネス	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
94	30min. サンゼロミニッツ	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
95	ジョルダンニュース！	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
96	SEOTOOLS	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
97	とれまがニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
98	BEST TIMES	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
99	Infoseek ニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
100	NewsCafe	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
101	朝日新聞デジタル&M	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
102	ニコニコニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
103	ハピママ	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
104	eltha	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
105	ウレびあ総研	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
106	CREA WEB	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
107	Traicy	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
108	読売新聞オンライン	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載

109	Cube ニュース	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
110	JBpress（日本ビジネスプレス）	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
111	PRESIDENT Online	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
112	東洋経済オンライン	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
113	BtoBプラットフォーム	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
114	暮らしニスタ	2020/01/22	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
115	フレッシュアイ	2020/01/23	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
116	spice	2020/01/27	山崎美貴×高井浩子インタビュー 演劇とお茶の両方を楽しめる「和」な公演 東京タンパリン『花筏』
117	ステージナタリー	2020/01/27	伊藤キムのソロ作品『病める舞姫』が再演、アフタートークゲストに黒木渚
118	CINRA	2020/01/28	「TPAM」ブレ企画がshibuya-sanで開催
119	舞台制作PLUS	2020/01/28	TPAMプレイベント「フリンジナイト」渋谷で開催
120	CINRA	2020/01/30	TPAM、KEXディレクターに聞く2019年以降の舞台芸術祭の行方
121	shibuya-san	2020/01/31	2月3日（月）にプレイベント「TPAMフリンジナイト」を開催します
122	ステージナタリー	2020/01/31	茶道教室のイケメン先生に呼び出され… 東京タンパリンわのわ『花筏』
123	劇場、音楽堂等連絡協議会	2020/02/01	TPAM／劇音協共催 日本の劇場、音楽堂等が「世界への窓」となるために ～地域コミュニティから国際会議まで～
124	XTRAX（英国）	2020/02/02	XTRAX in Japan: TPAM2020
125	横浜観光情報	2020/02/05	TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020
126	ステージナタリー	2020/02/06	93歳の俳優・おかじいが岡山から横浜へ、『ポータブルトレットシアター』
127	ステージナタリー	2020/02/06	おむすびが結ぶ航海の旅へ、はらぺこ満月の新作は『さんかくまる』
128	フレッシュアイ	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
129	iza（イザ!）	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
130	CREA WEB	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
131	Traicy	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
132	財経新聞	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
133	@DIME	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
134	産経ニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
135	朝日新聞デジタル＆M	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
136	ジョルダンニュース！	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
137	BtoBプラットフォーム	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
138	読売新聞オンライン	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
139	おたくま経済新聞	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
140	Cube ニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
141	BIGLOBE ニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
142	@niftyビジネス	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
143	時事ドットコム	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
144	現代ビジネス	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載

145	PRESIDENT Online	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
146	マピオンニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
147	Infoseekニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
148	30min. サンゼロミニッツ	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
149	NewsCafe	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
150	暮らしニスタ	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
151	とれまがニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
152	SEOTOOLS	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
153	eltha	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
154	ニコニコニュース	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
155	ハピママ	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
156	PR TIMES	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
157	LINE NEWS	2020/02/06	横浜市文化芸術振興財団発行リリース掲載
158	PORTALTEATER（インドネシア）	2020/02/06	Eko Supriyanto Eksplorasi Kekuatan Ritmik Likurai Lewat “IBUIBU BELU”
159	True Colors Festival	2020/02/07	TPAMエクステンジブプログラム「グループ・ミーティング」にTrue Colors Festivalが参加！
160	ステージナタリー	2020/02/07	ARICA、キオスクの店員描く一人芝居『KIOSK』を駅構内で上演
161	ステージナタリー	2020/02/07	『それからの街』リクリエーション版が開幕、額田大志「わからなさへの挑戦」
162	POS-KUPANG.COM（インドネシア）	2020/02/07	Luar Biasa! IBUIBU BELU Tampil di Komunitas Salihara-Jakarta Selatan
163	detikhot（インドネシア）	2020/02/07	Pentas “Ibulbu Belu” Lampau Batas Panggung Seni Tari
164	POS-KUPANG.COM（インドネシア）	2020/02/08	Likurai Kontemporer Asal Belu Siap Dipentaskan di Jepang
165	ステージナタリー	2020/02/09	岡田智代×大谷能生『カシオペアの背中』さらなる“音楽とダンスの拮抗”に挑戦
166	ステージナタリー	2020/02/09	追手門学院高等学校、TPAMで余越保子・前田司郎作品を上演
167	中西理の下北沢通信	2020/02/10	ヌトミック『それからの街』レビュー
168	中西理の下北沢通信	2020/02/11	鮭スベアレ 物狂い音楽劇『リヤ王』レビュー
169	中西理の下北沢通信	2020/02/11	若手振付家ショーケース（北尾亘、田村興一郎）レビュー
170	ステージナタリー	2020/02/12	舞台の上で“真実の告白”は可能か？ y/n『カミングアウトレッスン』
171	台北駐日経済文化代表処	2020/02/12	「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020」に台湾のパフォーマーらが出演
172	ヨコハマ経済新聞	2020/02/14	横浜で「国際舞台芸術ミーティング（TPAM）」
173	中西理の下北沢通信	2020/02/15	青年団国際演劇交流プロジェクト2019／青年団第81回公演『東京ノート・インターナショナルバージョン』@吉祥寺シアター
174	JOHORKINI2020（マレーシア）	2020/02/18	タン・イージャン氏が参加した「舞台芸術AiRミーティング」レポート
175	DanceWebzine（韓国）	2020/03/01	ジャン・グァンヨル氏によるTPAM、横浜ダンスコレクションレポート
176	Bangkok Post（タイ）	2020/03/03	Where does a performance begin?
177	merahputih.com（インドネシア）	2020/03/08	Menelisik Kerja Seni Pertunjukan Asia melalui TPAM2020
178	ArtsEquator（シンガポール）	2020/03/09	Thanapol Virulhakul’s “The Retreat”: Dance, Uncontained

179	演劇最強論-ing	2020/03/10	藤原ちからの2010年代プレイバック
180	서울연극센터 (韓国)	2020/03/10	『オギヨディオラ／ねじロール』レビュー
181	演劇最強論-ing	2020/03/12	藤原ちからの2019プレイバック
182	PORTALTEATER (インドネシア)	2020/03/12	Setelah TPAM Jepang, “IBUIBU BELU” Siap Tampil di AsiaTOPA 2020
183	ArtsEquator (シンガポール)	2020/03/12	“No. 60”: Klunchun unmasks the Khon
184	ArtsEquator (シンガポール)	2020/03/12	Eko Supriyanto’s “IBUIBU BELU”: Uncomfortable Questions
185	THE NEW INDIAN EXPRESS (インド)	2020/03/13	Striking a balance: Padmini Chettur talks about her latest show Philosophical Enactment 1
186	artscape	2020/03/15	劇団態変『箱庭弁当』、アブラクサス『タブーなき世界そのつくり方』レビュー
187	artscape	2020/03/15	イエティヌ企画『イマジナリーピーポー イントーキョー』レビュー
188	artscape	2020/03/15	口口『四角い2つのさみしい窓』レビュー
189	artscape	2020/03/15	烏丸ストロークロック『まほろばの景2020』レビュー
190	서울연극센터 (韓国)	2020/03/26	コ・ジュヨン氏による基調講演レポート
191	DanceWebzine (韓国)	2020/04/01	ジャン・グァンヨル氏によるTPAM、横浜ダンスコレクション観覧記
192	創造都市横浜	2020/04/16	地域に求められる文化芸術支援の形を考える
193	RealTokyo	2020/07/15	桂真菜氏によるTPAM2020レポート
194	ahramonline	2020/09/15	中島那奈子氏インタビュー TPAM2016の『ダンスアーカイブボックス』に言及
195	European Dance Network (欧州)	不明	TPAM2020
196	CINARS (カナダ)	不明	TPAM – PERFORMING ARTS MEETING IN YOKOHAMA / CANADA ON STAGE
197	TASKO	不明	「TPAM – 国際舞台芸術ミーティング in 横浜」制作を担当しています
198	Performing Arts Hub Norway (ノルウェー)	不明	OPEN CALL – TPAM2020
199	横浜ダンスコレクション	不明	「HOTPOT東アジア・ダンスプラットフォーム」告知記事
広告	媒体名	掲載日／号	内容
1	PAMS (韓国)		プログラム広告
2	tanzmesse (ドイツ)		プログラム広告
3	WOMEX (フィンランド)		プログラム広告
4	台湾ウィーク (台湾)		チラシ広告
5	CINARS (カナダ)		バナー広告
6	国際演劇年鑑2019		会期告知広告



www.tpam.or.jp

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局（PARC－国際舞台芸術交流センター）

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町 6-50-1 BankART Temporary 2F

Tel 045-264-6514

Fax 045-264-6598